

令和元年度

第1回岩手県生涯学習審議会

社会教育委員会議

期日：令和1年7月18日（木）

場所：サンセール盛岡 1F ダイヤモンド

資料

資料1	生涯学習・文化財行政の事業体系	P 2～3
	第3期アクションプランの進捗状況	P 4
	生涯学習文化財課 経営計画	P 5
	1 生涯学習の推進	P 6
	2 家庭教育の支援	P 7
	3 青少年の学習活動の支援	P 8～9
	4 成人・高齢者の学習活動の支援	P 10
	5 社会教育の充実	P 11
	6 文化財の保護	P 12
	7 社会教育施設等の環境整備	P 13
資料2	学校調整課	P 14
資料3	学校教育課	P 15
資料4	保健体育課	P 16～17
資料5	県立生涯学習推進センター	P 18
資料6	県立図書館	P 19
資料7	県立博物館	P 20
資料8	県立美術館	P 21
資料9	県立青少年の家	P 22～24
資料10	今後求められる施策の方向性について	P 25～P 40

岩手県教育委員会

令和元年度

生涯学習・文化財行政の事業体系

- 生涯学習・文化財行政の体系
第3期アクションプランの進捗状況
生涯学習文化財課 経営計画
- 1 生涯学習の推進
 - 2 家庭教育の支援
 - 3 青少年の学習活動の支援
 - 4 成人・高齢者の学習活動の支援
 - 5 社会教育の充実
 - 6 文化財の保護
 - 7 社会教育施設等の環境整備

岩手県教育委員会事務局生涯学習文化財課

令和元年度 生涯学習・文化財行政の体系

いわて県民計画 2019～2028

I 健康余暇 II 家族・子育て III 教育

～東日本大震災津波の経験に基づき、引き続き復興に取り組みながら、
お互いに幸福を守り育てる希望郷いわて～

岩手県教育振興計画

計画
期間

2019年度～2023年度
までの5年間

岩手の教育をめぐる状況

1 岩手の教育の歩み

- ・ 平成18年の教育基本法の改正以降、社会全体での教育改革が進行
- ・ 教育振興運動や「いわて教育の日」などの取組の推進
- ・ 学習定着度状況調査による「わかる授業」の実践
- ・ 県立美術館、県立図書館の整備等
- ・ 「希望郷いわて国体・希望郷いわて大会」の開催
- ・ 平泉の文化遺産や橋野鉄鉱山の世界遺産登録

2 社会状況の変化

- ・ 人口減少・少子化・高齢化の進行
- ・ 急速な技術革新やグローバル化の進展
- ・ 子どもを取り巻く社会経済的な課題の表面化
- ・ 地域間格差の拡大
- ・ 東日本大震災津波からの復旧・復興

3 岩手県の教育の現状と課題

学校教育

- 子どもたちをめぐる課題
 - ・ 授業力の向上や家庭学習の定着
 - ・ 情報社会に主体的に対応する力の育成
 - ・ 運動習慣の定着
 - ・ 特別支援教育における発達段階に応じた支援や指導
 - ・ いじめへの適切な対応
 - ・ 問題行動等の未然防止、早期発見・適切な対応
- 教職員のスキルの継承と負担の増加
 - ・ 働き方改革による「チームとしての学校」の推進
- 高校卒業後の進学や就職を取り巻く環境
 - ・ 大学入試制度改革への対応
 - ・ 地元定着の促進に向けたキャリア教育の充実
- 学校の統廃合や施設の老朽化
 - ・ 教育の質の保証と学ぶ機会の保障

社会教育・家庭教育

- 家庭の状況変化
 - ・ 社会全体での教育力の向上
- 地域コミュニティの変化
 - ・ 教育振興運動や生涯学習による
地域コミュニティの維持向上
- 人生100年時代の到来
 - ・ 生涯にわたって学び続けられる環境づくり
- 文化芸術・スポーツへの関心の高まり
 - ・ 文化芸術やスポーツの推進と
地域への愛着の醸成





社会教育・家庭教育

目指す姿

県民が、主体的・相互的に連携し、助け合うことにより、家庭の教育力の向上に努めるとともに、地域課題の解決に向けた取組や、文化芸術・スポーツ活動などへの参加により、生涯を通じて楽しく学び、生き生きと生活しています。

取組の
視点

視点1

岩手だからこそできる教育、やるべき教育の推進

視点2

郷土に誇りと愛着を持つ心を育み、岩手で、世界で活躍する人材を育成

視点3

学びの場の復興の更なる推進

<具体的な施策の内容>

社会教育・家庭教育

<具体的な推進方策>

学校と家庭・地域との協働の推進

- 学校・家庭・地域が連携するしくみづくり
- 多様な体験活動の充実
- 地域学校協働活動の推進 等

子育て支援や家庭教育支援の充実

- 子育てや家庭教育に関する学習活動支援
- 電話やメール等による相談体制の充実
- 子育て支援グループのネットワークづくり 等

生涯にわたり学び続ける環境づくり

- 多様な学習機会の充実
- 学びと活動の循環による地域の活性化
- 社会教育の中核を担う人材の養成・確保と研修の充実 等

次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承

- 学校における特別活動や文化部活動による郷土芸能の継承
- 文化財の適切な保存と継承 等

いわて県民計画「第3期アクションプラン」の進捗状況 ～生涯学習文化財課主要事業の指標～

1 豊かな心を育む教育の推進

指標名	単位	現状値 (H26)	年度目標値				H30 実績値
			H27	H28	H29	H30	
児童生徒の読書者率の向上	%	小5;99.3	99.4	99.5	99.6	99.7	99.2
		中2;90.0	90.2	90.4	90.6	90.8	95.0
		高2;66.7	67.0	68.0	69.0	70.0	77.0

現状値とこれまでの増加状況を踏まえ、小5は毎年0.1ポイント、中2は毎年0.2ポイント、高2は毎年1ポイントの増加を目指すものであること

2 家庭・地域との協働による学校経営の推進

指標名	単位	現状値 (H26)	年度目標値				H30 実績値
			H27	H28	H29	H30	
教育振興運動各実践区等で全県共通課題の「情報メディア」に関する活動に取り組んでいる割合	%	19.7	40.0	60.0	70.0	80.0	73.8

全県共通課題であることを踏まえ、期間前半は速やかな活動の広がりを目指するために毎年20ポイントの増加を目指し、期間後半は、地域ごとの教育課題解決に向けた取組の状況も踏まえ、毎年10ポイントの増加を目指すものであること。

3 生涯を通じた学びの環境づくり

指標名	単位	現状値 (H26)	年度目標値				H30 実績値
			H27	H28	H29	H30	
生涯学習リーダーの登録者数(累計) ※1	人	730	750	770	790	810	810
生涯学習に関する研修会等への参加者数 ※2	人	6,194	6,400	6,600	6,800	7,000	7,139
生涯学習情報提供システム利用件数(システムトップページへのアクセス数) ※3	件	23,710	24,895	26,080	27,265	28,450	76,043
生涯学習・社会教育の推進に携わる関係職員の人材育成事業の満足度(参加者満足度4段階評価A「大いに満足」の割合) ※4	%	—	80	80	80	80	80.9
ホフアライ等のネットワークを因る研修会の満足度(参加者満足度4段階評価A「大いに満足」の割合) ※4	%	—	80	80	80	80	86.7

※1・・・毎年20人の増加を目指すものであること。

※2・・・毎年200人の増加を目指すものであること。

※3・・・毎年1185件(現状値の5%)の増加を目指すものであること。

※4・・・毎年80%以上を目指すものであること。

4 文化芸術の振興

指標名	単位	現状値 (H26)	年度目標値				H30 実績値
			H27	H28	H29	H30	
世界遺産が所在する市町村数 ※5	市町村	1	2	2	2	3	2

※5・・・H27に釜石市(橋野鉄鉱山)、H30に戸町(北海道・北東北の縄文遺跡群)が加わることを目指すものであること。

1 組織の基本目標

- 学校・家庭・地域住民等の連携・協働による社会教育の充実を図るとともに、学びの成果が地域で生かされる生涯学習の環境づくりに取り組みます。
- 郷土への誇りと愛着を深める歴史遺産の継承と伝統文化の振興が図られるよう、文化財の保護と文化財に対する地域住民の理解促進に取り組みます。

2 本年度の主要項目

◆ 東日本大震災津波からの復興

(1) 文化芸術環境の整備や伝統文化等の保存と継承

- 〔重点事項〕
- ① 復興に係る埋蔵文化財調査の推進及び市町村支援
 - ② 被災文化財の保存・管理支援

(2) 社会教育・生涯学習環境の整備

- 〔重点事項〕
- ① 社会教育施設の機能回復の支援
 - ② 地域コミュニティの復興支援
 - ③ 復興に向けた学びの機会の充実

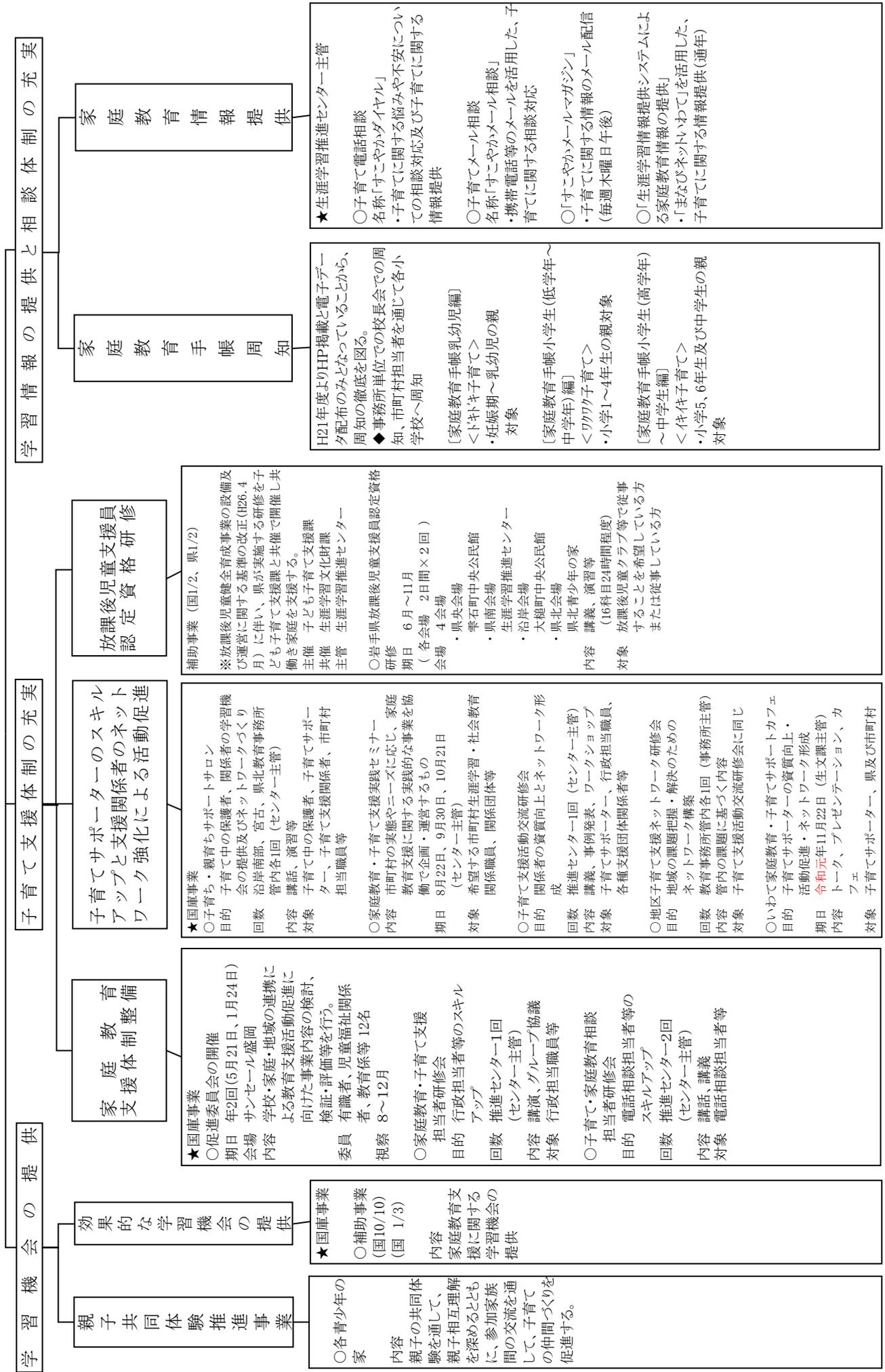
(3) スポーツ・レクリエーション環境の復旧整備

- 〔重点事項〕 スポーツ・レクリエーション施設の機能回復

◆ 「いわて県民計画（2019～2028）」及び「岩手県教育振興計画」の着実な推進

- 〔重点事項〕
- ① 学校と家庭・地域との協働の推進
 - ② 子育て支援や家庭教育支援の充実
 - ③ 生涯にわたり学び続ける場づくり
 - ④ 次世代につなげる郷土芸能や文化財の継承

2 家庭教育の支援



学習情報の提供と相談体制の充実

- 家庭教育情報提供
- 家庭教育手帳周知

★生涯学習推進センター主管

- 子育て電話相談
名称「すこやかダイヤル」
・子育てに関する悩みや不安についての相談対応及び子育てに関する情報提供
- 子育てメール相談
名称「すこやかメール相談」
・携帯電話等のメールを活用した、子育てに関する相談対応
- 「すこやかメールマガジン」
・子育てに関する情報のメール配信 (毎週木曜日午後)
- 「生涯学習情報提供システム」による家庭教育情報の提供
・「まなびネットいわて」を活用した、子育てに関する情報提供(通年)

H21年度よりHP掲載と電子データ配布のみとなっていることから、周知の徹底を図る。

◆事務所単位での校長会での周知、市町村担当者を通じて各小・中学校へ周知

[家庭教育手帳乳幼児編]
＜ドキドキ子育て＞
・妊娠期～乳幼児の親対象

[家庭教育手帳小学生(低学年～中学年)編]
＜ワウワウ子育て＞
・小学1～4年生の親対象

[家庭教育手帳小学生(高学年)～中学生編]
＜休休子育て＞
・小学5、6年生及び中学生の親対象

子育て支援体制の充実

放課後児童支援員認定資格研修

補助事業 (国1/2、県1/2)

※放課後児童健全育成事業の設備及び運営に関する基準の改正(H26.4月)に伴い、県が実施する研修を子ども子育て支援課と共催で開催し共働き家庭を支援する。

主催 子ども子育て支援課
共催 生涯学習文化財課
主管 生涯学習推進センター

○岩手県放課後児童支援員認定資格研修
期日 6月～11月
(各会場 2日間×2回)
会場 4会場
・県央会場
・県南会場
・生涯学習推進センター
・沿岸会場
・大槌町中央公民館
・県北会場
・東北青少年の家
講義、演習等
(16科目24時間程度)
対象 放課後児童クラブ等で従事することを希望している方または従事している方

子育てサポーターのネットワーク強化による活動促進

★国庫事業

○子育てサポーターサロン
目的 子育て中の保護者、関係者の学習機会の提供及びネットワークづくり
回数 沿岸南部、宮古、県北教育事務所管内各1回(センター主管)
内容 講話、演習等
対象 子育て中の保護者、子育てサポーター、子育て支援関係者、市町村担当職員等

○家庭教育・子育て支援実践セミナー
内容 市町村の実態やニーズに応じ、家庭教育支援に関する実践的な事業を協働で企画・運営するもの
期日 8月22日、9月30日、10月21日(センター主管)
対象 希望する市町村生涯学習・社会教育関係職員、関係団体等

○子育て支援活動交流研修会
目的 関係者の資質向上とネットワーク形成
回数 推進センター1回(センター主管)
内容 講義、事例発表、ワークショップ
対象 子育てサポーター、行政担当職員、各種支援団体関係者等

○地区子育て支援ネットワーク研修会
目的 地域の課題把握・解決のためのネットワーク構築
回数 教育事務所管内各1回(事務所主管)
内容 管内の課題に基づく内容
対象 子育て支援活動交流研修会と同じ

○いわて家庭教育・子育てサポーターカフェ
目的 子育てサポーターの資質向上・活動促進・ネットワーク形成
期日 令和元年11月22日(生文課主管)
内容 トーク、プレゼンテーション、カフェ
対象 子育てサポーター、県及び市町村

学習機会の提供

家庭教育支援体制整備

★国庫事業

○促進委員会の開催
期日 年2回(5月21日、1月24日)
会場 サンセール盛岡
内容 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動促進に向けた事業内容の検討、検証・評価等を行う。

委員 有職者、児童福祉関係者、教育係等 12名
視察 8～12月

○家庭教育・子育て支援担当者研修会
目的 行政担当者等のスキルアップ
回数 推進センター1回(センター主管)
内容 講演、グループ協議
対象 行政担当職員等

○子育て・家庭教育相談担当者研修会
目的 電話相談担当者等のスキルアップ
回数 推進センター2回(センター主管)
内容 講話、講義
対象 電話相談担当者等

効果的な学習機会の提供

★国庫事業

○補助事業(国10/10)(国1/3)
内容 家庭教育支援に関する学習機会の提供

親子共同体験推進事業

○各青少年の家
内容 親子の共同体験を通して、親子相互理解を深めるとともに、参加家族間の交流を通して、子育ての仲間づくりを促進する。

3 青少年の学習活動の支援①

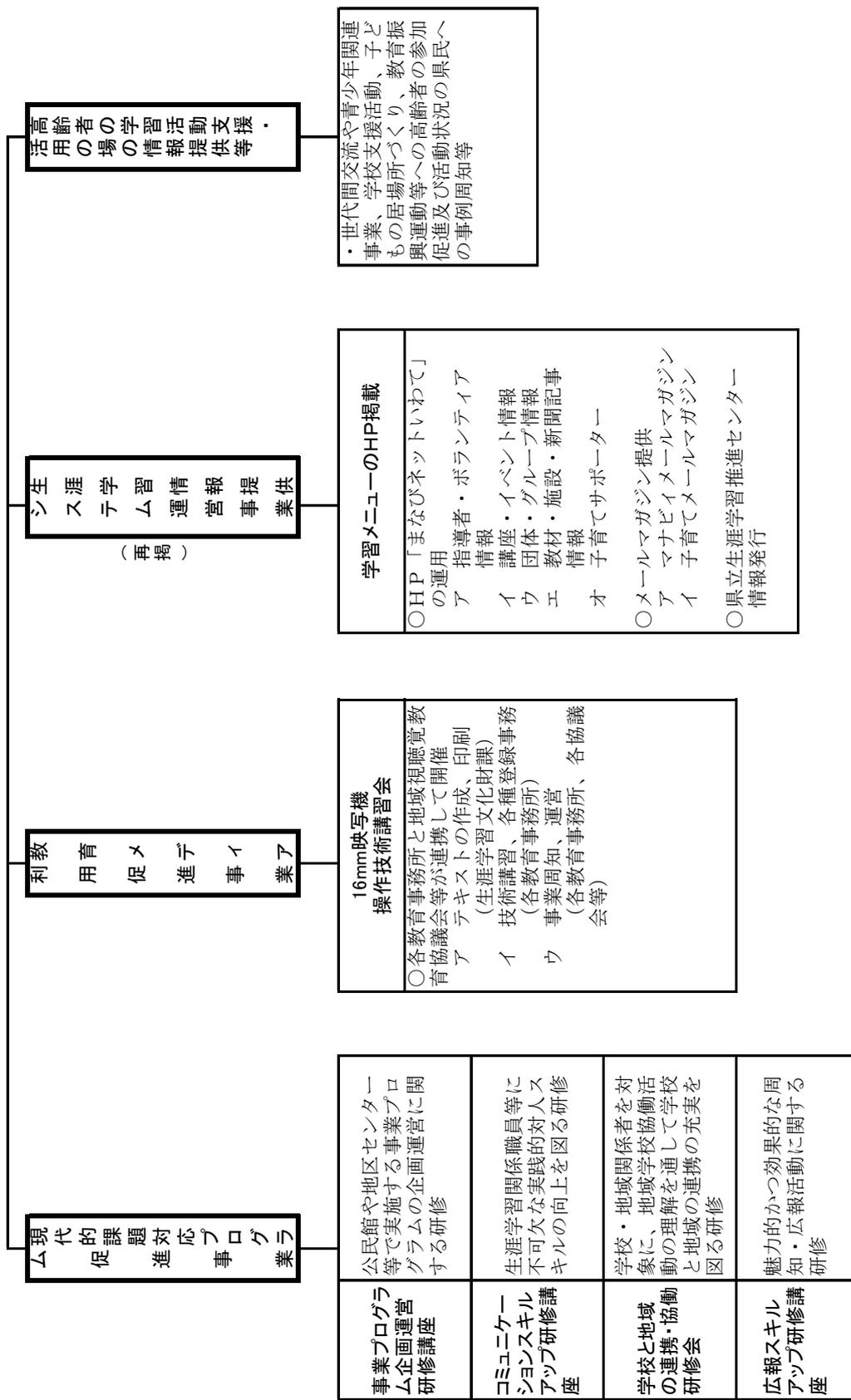
<p>子どもの読書活動推進事業</p> <p>子どもの読書活動推進体制整備事業</p> <p>○岩手県子どもの読書活動推進委員会(6月19日、1月31日)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県全域における推進方針検討 ・推進状況の評価等 <p>○子どもの読書活動推進体制整備事業(各地域事業)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各地区における推進体制の整備 ・各教育事務所主管 <p>○岩手県子どもの読書状況調査</p> <p>対象期間：10月1日～31日</p> <p>調査対象：県内の公立小学校5年生・中学校2年生(義務教育学校5年・8年)</p>	<p>子どもの読書活動普及啓発事業</p> <p>○岩手県子どもの読書活動推進計画【第4次】の周知・普及</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各種会議、研修会等における周知 <p>○ブックリスト「いわ100(中高生向け)」及び「いわ100きつず(小学生向け)」の活用促進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学1年生及び中学1年生への配付 ・活用例等の情報提供 	<p>子どもの読書活動推進研修事業</p> <p>○読書ボランティア等研修会(中央研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県内全域を対象とした読書ボランティア等の資質向上を図る <p>○読書ボランティア等研修会(各地域研修)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の実情に応じた研修会 <p>○各教育事務所主管</p> <ul style="list-style-type: none"> ・中・高等学校図書館担当者等研修会 ・学校と関係機関との連携体制構築及び担当者資質向上を図る 	<p>教育振興運動充実事業</p> <p>推進幹事会</p> <p>期日 年2回(7月8日、2月3日)</p> <p>幹事 教委13名+知事部局2名</p> <p>内容 運動の推進方針の検討</p> <p>運動の評価と反省</p> <p>※ 幹事による各種フォーラム・研修会の視察を実施</p>	<p>地域連携窓口教員の位置づけ推進</p> <p>○地域とともにある学校づくりを目標とした全中小義務教育学校及び県立高等学校における公務分掌上の位置づけ推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・位置づけ率調査の実施 ・地域とともにある学校づくり推進フォーラム・教育振興運動推進研修会等への参加奨励 	<p>青少年の家プログラム充実事業</p> <p>○県立各青少年の家におけるプログラム開発</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特色ある自然体験プログラム ・不登校児童生徒等対応プログラム ・地域人材のボランティア養成プログラム 	<p>青少年健全育成連携事業</p> <p>若者女性協働推進室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・青少年育成県民会議連携 <p>○いわて希望塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：11月2～4日 ・場所：陸中海岸青少年の家他 ・内容：知事講話 <p>グループディスカッション等</p> <p>○わたしの主張岩手県大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：9月18日 ・場所：小田島組☆ほへる(いわて県民情報交流センター) ・内容：中学生による意見発表 <p>○わたしの主張地区大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：8月～9月 ・場所：各警察署管内 ・内容：中学生による意見発表 <p>○情報メディア対応促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教振運動との連携 ・出前講座 ・講師派遣に係る情報提供 ・相談窓口紹介 <p>○立入調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不健全図書立入調査 ・月1回実施 <p>○いわて家庭の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・親子のふれあいを啓発する県民運動を推進 ・毎月第3日曜日 	<p>子どもゆめ基金</p> <p>子どもゆめ基金</p>
<p>地域活性化推進事業</p> <p>期日 6月～</p> <p>対象 各市町村、実践区、学校等</p> <p>内容 県社教主事が連携し、当該市町村等が抱える課題の把握や、実態に応じた支援を行う。</p>	<p>周知・啓発</p> <p>○メルマガの配信とHPへの掲載</p> <p>○教振に係るアンケートの実施</p> <p>○初任研(2年研)・10年研による教員への啓発</p> <p>○地域の活性化・地域コミュニティの再生を促進する啓発活動</p> <p>○ポスター、イメーজソングによる運動の周知</p>	<p>いわて地域学校協働活動推進フォーラム・教育振興運動55周年集約大会</p> <p>期日 1月15日(水)</p> <p>場所 小田島組☆ほへる</p> <p>対象 (いわて県民情報交流センター)運動関係者、県民等</p> <p>内容 「みんなで教振!5か年プラン」の総括講演、事例発表、パネルディスカッション等</p>	<p>市町村担当者研修会</p> <p>期日 5月15日(水)</p> <p>場所 生涯学習推進センター</p> <p>対象 市町村担当者、実践区リーダー、教育振興運動担当指導主事等</p> <p>内容 行政説明(H30推進状況、H31推進方針)演習、質疑応答等</p>	<p>教員への周知・研修強化</p> <p>○各教育事務所等で実施する公立小中学校の初任者研修(2年研)及び教職10年研修等において、学社連携・融合、教育振興運動等の趣旨の理解を図る</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指導主事と社会教育主事が連携して実施 	<p>青少年健全育成連携事業</p> <p>○いわて希望塾</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：11月2～4日 ・場所：陸中海岸青少年の家他 ・内容：知事講話 <p>グループディスカッション等</p> <p>○わたしの主張岩手県大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：9月18日 ・場所：小田島組☆ほへる(いわて県民情報交流センター) ・内容：中学生による意見発表 <p>○わたしの主張地区大会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・期日：8月～9月 ・場所：各警察署管内 ・内容：中学生による意見発表 <p>○情報メディア対応促進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教振運動との連携 ・出前講座 ・講師派遣に係る情報提供 ・相談窓口紹介 <p>○立入調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・不健全図書立入調査 ・月1回実施 <p>○いわて家庭の日</p> <ul style="list-style-type: none"> ・家族・親子のふれあいを啓発する県民運動を推進 ・毎月第3日曜日 	<p>地域とともにある学校づくり推進フォーラム・教育振興運動推進研修会</p> <p>期日 6月～7月</p> <p>場所 各教育事務所管内</p> <p>対象 学校関係者(小中義務教育学校は1名悉皆)、PTA関係者、教育委員会関係者、学校運営協議会委員、運動関係者、その他県民等</p> <p>内容 行政説明、講演、事例発表、パネルディスカッション</p>	<p>子どもゆめ基金</p> <p>子どもゆめ基金</p>

3 青少年の学習活動の支援②

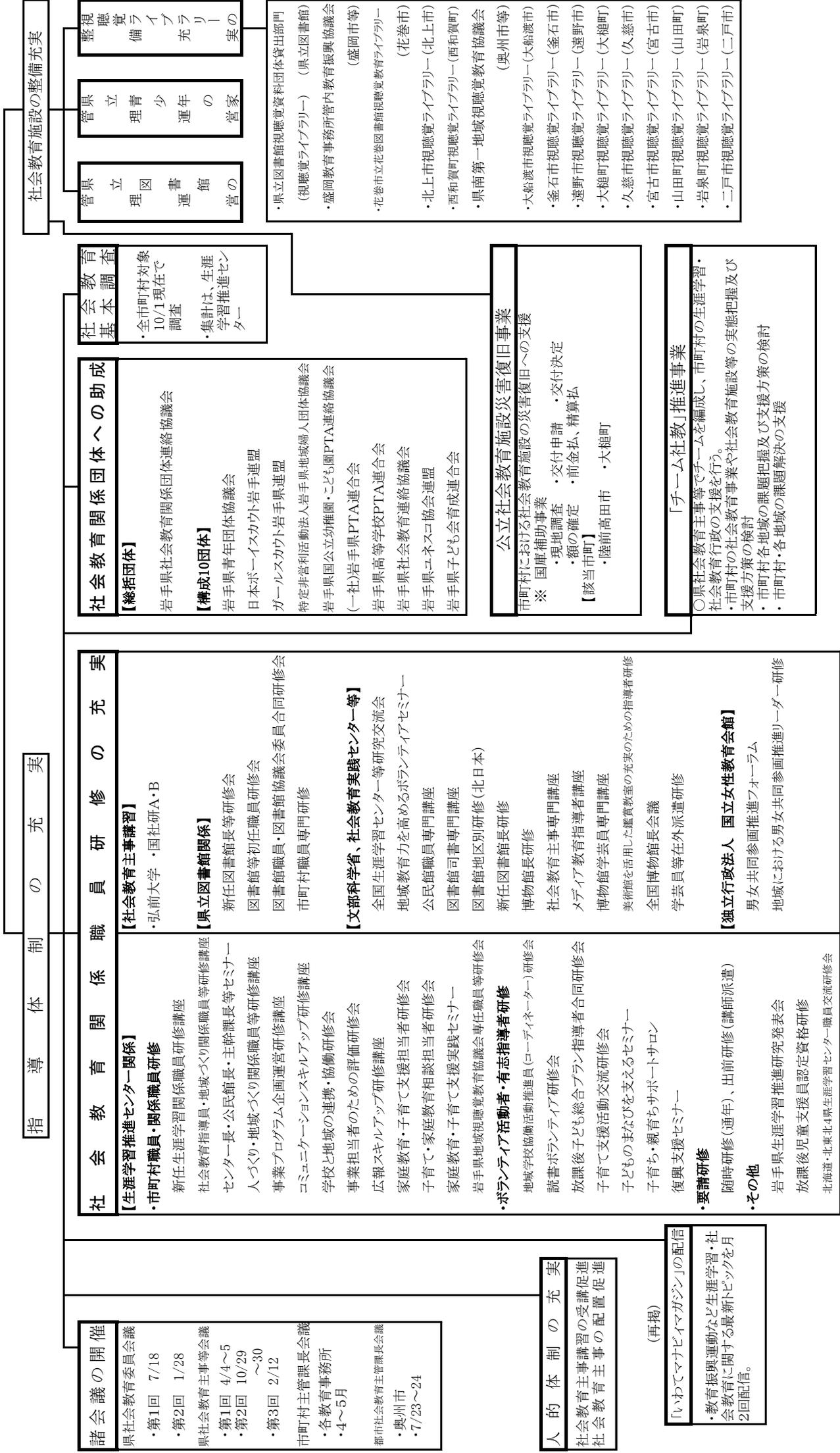
<p>学校と地域の協働推進事業</p> <p>県事業</p> <p>★国庫事業 ○促進委員会の開催 年2回(5月、2月) 内容 ・事業内容の検討 ・実施後の評価 ・検証等 委員 教育関係者、行政関係等 12名 視察 8～12月</p> <p>○地域学校協働活動推進員(コーディネーター)研修(養成、基礎、応用)の開催 ○子供の学びを支えるセミナーの開催 ○学校と地域の協働のための研修会 場所 生涯学習推進センター 内容 講演、事例発表、情報交換等 対象 地域コーディネーター、地域連携窓口教員、市町村担当者等</p> <p>○事業の周知・事例紹介・HPへの事例掲載等</p>	<p>放課後子ども総合プラン推進事業 (放課後における子どもの居場所確保)</p> <p>県事業</p> <p>子ども子育て支援課共催事業 (再掲)</p> <p>補助事業(国1/2、県1/2) ○岩手県放課後児童支援員認定資格研修 主催 子ども子育て支援課 共催 生涯学習文化課 主管 生涯学習推進センター 期日 7月～12月 (各会場 2日間×2回) 会場 県北青少年の家 大槌町公民館、雫石公民館 対象 生涯学習推進センター 放課後児童クラブ等で従事している方または従事を希望している方</p>	<p>市町村事業</p> <p>★国庫事業 19市町村64本部 (R1)</p> <p>①目的 地域全体で学校教育を支援するため、学校と地域との連携体制の構築を図り、ボランティアによる多様な形態の教員支援をおこなうとともに、地域の教育力の向上をめざす。</p> <p>②内容 ・市町村実行委員会の設置 ・地域教育協議会の設置 ・地域学校協働本部の設置 ・学校支援事業の企画立案 ・地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の配置 ・学校支援ボランティアの支援 ・人材バンクの作成等</p>
<p>放課後子ども総合プラン推進事業 (放課後における子どもの居場所確保)</p> <p>県事業</p> <p>★国庫事業 ○促進委員会の開催 年2回(5月、1月) 内容 学校・家庭・地域の連携による教育支援活動の推進に係る事業内容の検討、事業の検証・評価等を行う教育関係者、保健福祉関係者 12名 委員 8月～12月 視察</p> <p>○指導者等合同研修会の開催 期日 年3回(6月、9月、12月) 場所 6月：推進センター 9月：推進センター 12月：(未定) 内容 講演、スキュアアップ、分科会、事例発表、情報交換 対象 コーディネーター、安全管理員、学習アドバイザー、放課後児童支援員、各市町村担当者等</p>	<p>中高生の学習支援等 (市町村・NPO団体等との連携事業)</p> <p>★国庫事業 ○地域人材を活用し、学校・社会教育施設・仮設住宅集会所等の学習に被災地における中高生の学習支援等を推進(沿岸5市町村) ※(一社)子どもものエンプラワメン トいわてに補助</p>	<p>★国庫事業 23市町村106教室 (R1)</p> <p>○運営委員会の開催 内容 市町村における放課後児童対策の策定、ボランティアの確保、事業運営方法の検討 委員 行政、学校、放課後児童クラブ、社会教育、児童福祉関係者等 ○人的配置 ・地域学校協働活動推進員(コーディネーター)の配置 ・安全管理員の配置 ・学習アドバイザーの配置 ○活動内容 ・遊びの場の設置 ・体験の場の設置 ・交流の場の設置 ・学びの場の設置 ・生活の場の確保 ※市町村単独事業として実施 北上市3教室</p>
<p>学校と地域の協働推進事業</p> <p>県事業</p> <p>★国庫事業 ○促進委員会の開催 年2回(5月、2月) 内容 ・事業内容の検討 ・実施後の評価 ・検証等 委員 教育関係者、行政関係等 12名 視察 8～12月</p> <p>○地域学校協働活動推進員(コーディネーター)研修(養成、基礎、応用)の開催 ○子供の学びを支えるセミナーの開催 ○学校と地域の協働のための研修会 場所 生涯学習推進センター 内容 講演、事例発表、情報交換等 対象 地域コーディネーター、地域連携窓口教員、市町村担当者等</p> <p>○事業の周知・事例紹介・HPへの事例掲載等</p>	<p>いわて地域学校連携促進事業</p> <p>・地区「地域とともにある学校づくり」連携フォーラムの開催 期日：各教育事務所と調整 場所：各教育事務所管内 内容：行政説明、実践事例発表 パネルディスカッション等</p> <p>・教育委員会説明会 期日：各市町村教育委員会と調整 場所：各市町村庁舎内 内容：国および県施策の説明</p> <p>・地域学校連携・協働推進支援事業 期日：通年 場所：各市町村、学校、地区等 内容：指導主事・社教主事が連携し、各町村等が抱える課題解決のための事業等に対し、要請に応じてチームによる支援を実施する。</p> <p>・社会教育施設の有効活用 期日：通年 場所：各青少年教育施設等 内容：社会教育施設を活用した授業の取組事例を収集・紹介する。</p> <p>・地域学校連携・協働推進モデル指定研究事業 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入等、地域学校の連携・協働の在り方等について調査研究を行うとともにその成果を普及啓発する。</p>	<p>いわて地域学校連携促進事業</p> <p>・地区「地域とともにある学校づくり」連携フォーラムの開催 期日：各教育事務所と調整 場所：各教育事務所管内 内容：行政説明、実践事例発表 パネルディスカッション等</p> <p>・教育委員会説明会 期日：各市町村教育委員会と調整 場所：各市町村庁舎内 内容：国および県施策の説明</p> <p>・地域学校連携・協働推進支援事業 期日：通年 場所：各市町村、学校、地区等 内容：指導主事・社教主事が連携し、各町村等が抱える課題解決のための事業等に対し、要請に応じてチームによる支援を実施する。</p> <p>・社会教育施設の有効活用 期日：通年 場所：各青少年教育施設等 内容：社会教育施設を活用した授業の取組事例を収集・紹介する。</p> <p>・地域学校連携・協働推進モデル指定研究事業 コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の導入等、地域学校の連携・協働の在り方等について調査研究を行うとともにその成果を普及啓発する。</p>

(注)
 ★・・・被災者支援総合交付金事業「仮設住宅の再編等に係る子供の学習支援によるコミュニティ復興支援事業」構成事業として実施(国10/10)
 ☆・・・国庫事業「学校・家庭・地域連携協力推進事業」構成事業として実施(国1/3、県1/3、市町村1/3)

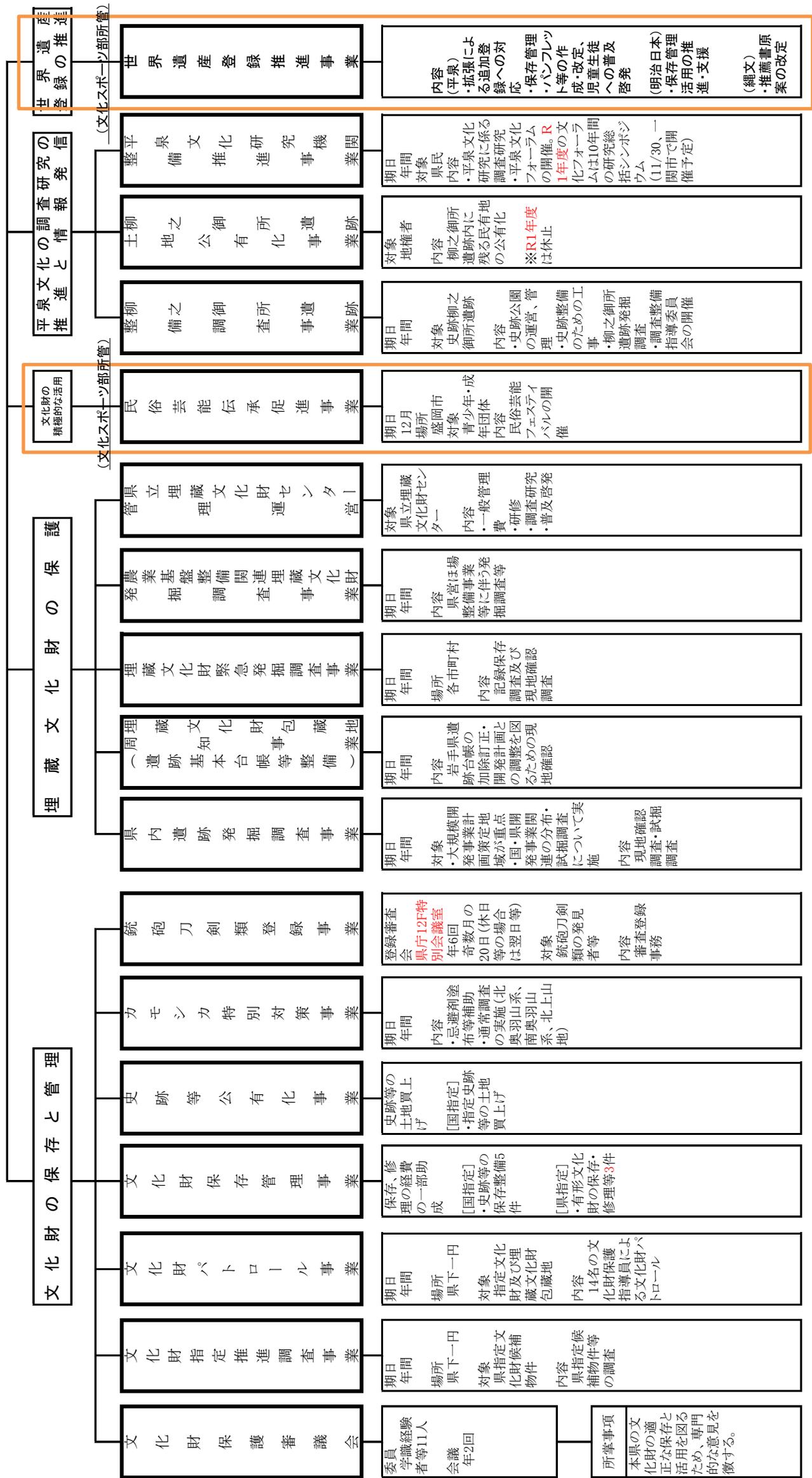
4 成人・高齢者の学習活動の支援



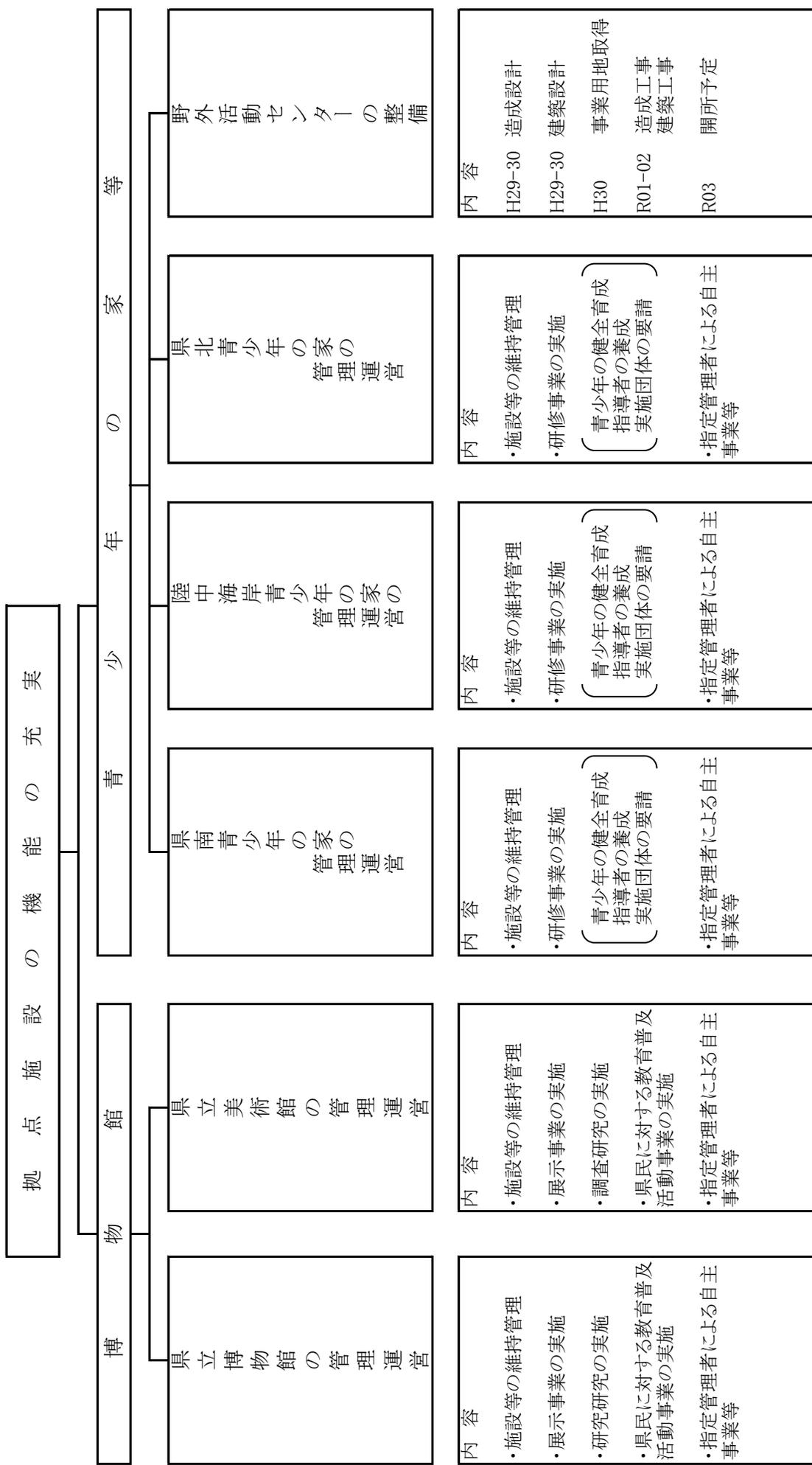
5 社会教育の充実



6 文化財の保護



7 社会教育施設等の環境整備



令和元年度の施策に係る概要

公所名 学校調整課

説明者 総括課長 木村 克則

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
いわての復興教育の推進	「岩手の復興・発展を支えるひとづくり」を目指して、本県独自の教育プログラム等に基づき、各学校の実情に応じて、「いわての復興教育」を推進する。 「いわての復興教育スクール〈沿岸〉」(41校)と「いわての復興教育スクール〈内陸〉」(14校)を指定し、学校・家庭・地域が連携・協働し、児童生徒の発達段階や各学校・地域の実情に応じたいわての復興教育を推進する。また、「岩手県防災教育研修会」(7年目)は、管理職、主任層を対象に「災害時における状況判断」をテーマとして実施した(6/7)。震災の教訓等を語り継ぎ、「いわての復興教育」を県内外に発信するため、 児童生徒実践発表会 を行う。
幼児児童生徒の心のサポートの充実	東日本大震災津波による被害が大きかった地域への臨床心理士等の派遣や専門家で構成する県内大学チームによる支援、「心とからだの健康観察」の実施・活用等により、子どもたちの心のサポートに引き続き取り組む。
いじめ問題対策	自殺予防の取組、関係機関への情報提供と連携、児童生徒による取組の推進等いじめ問題への対応についての教員研修の充実や「いじめ問題解決支援チーム」の派遣等に取り組む。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
いわての復興教育の推進	いわての復興教育推進事業	・いわての復興教育スクール(沿岸)	R2.2.14 まで	小3、中3、県立 12
		・交流学习スクール		小2、中4、県立 4
		・震災学習列車活用スクール		小 11、県立 2
		・いわての復興教育スクール(内陸)	R2.2.18 まで	小5、中4、県立 5
		・岩手県防災教育研修会	R1.6.7	学校管理職・主任層 市町村防災担当者等 201名
		・学校防災アドバイザー派遣事業	R2.2.14 まで	全公立学校
		・「震災の教訓を未来に語り継ぐ期間」の設定	R2.3月まで 随時	
	・児童生徒実践発表会	R2.2.4	小2、中2、県立 2	
教育相談体制の充実	スクールカウンセラー(SC)等配置事業	・SCの重層的な配置を行い教育相談体制の一層の充実を図る。	H31.4月から R2.3月	幼小中高の幼児児童生徒
	スクールソーシャルワーカー(SSW)配置事業	・各教育事務所にSSWを配置し、児童生徒が置かれている環境の改善に関する支援を強化する。	H31.4月から R2.3月	小中学校の児童生徒
	スクールソーシャルワーカー(SSW)の派遣	・県立学校へSSWを派遣し児童生徒の環境の改善に関する支援を行う。	H31.4月から R2.3月	県立学校の児童生徒
	心とからだの健康観察	・児童生徒一人ひとりの経年変化がわかる資料を提供する。	毎年 8～9月	小中高特の全児童生徒
いじめ問題対策	教職員研修	・いじめ防止等に係る全校悉皆の特別研修を実施する。	R1.5月	小中高特の教員
	「いじめ問題解決支援チーム」の派遣	・各学校等の解決困難ないじめ事案に、専門的な知見からの助言等を行い、重大事態の発生を防ぐとともに、いじめ問題への組織的対応力の向上を支援する。	H31.4月から R2.3月	県内公立小・中・高・義務教育学校及び市町村教育委員会

令和元年度の施策に係る概要

公所名 学校教育課

説明者 総括課長 小久保 智史

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
学力向上	児童生徒の確かな学力を育むために①諸調査結果等を活用したCAPDサイクルによる組織的対応の強化、②児童生徒のつまづきを解消する視点での授業改善、③主体的な家庭学習の充実等に取り組み。 昨年度に引き続き、「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」の機会を通じて、学校と地域・家庭の連携や家庭学習の意義などについて啓発を図る。
グローバル人材の育成	グローバルな視点を持ち地域の国際化に貢献できる人材を育成するため、 グローバル人材として必要な語学力(英語力) の向上を図るとともに、英語キャンプであるイーハトーブ・キャンプや海外派遣研修等を実施する。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
学力向上	「地域とともにある学校づくり推進フォーラム」	学校と家庭・地域との連携による家庭での学習習慣の確立や、学力向上に関する共通理解を図る。	6～7月	県内6地区の保護者・教育関係者等
グローバル人材の育成	いわての地域国際化人材育成事業	①小5～中1対象 イーハトーブ・キャンプ(Hop) 年3回(日帰り)、3会場 ②中1～高3対象 イーハトーブ・キャンプ(Skip) 年2回(1泊2日) 総合教育センター会場 ③中1～高3対象 イーハトーブ・キャンプ(Jump) 年2回(2泊3日)、2会場 ④高校生の海外派遣研修(北米)	①6・8・10月 ②8・9月 ③7・12月 ④10～11月の約2週間	①～③各回30～40名 ④12名

令和元年度の施策に係る概要

公所名 保健体育課

説明者 総括課長 清川 義彦

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

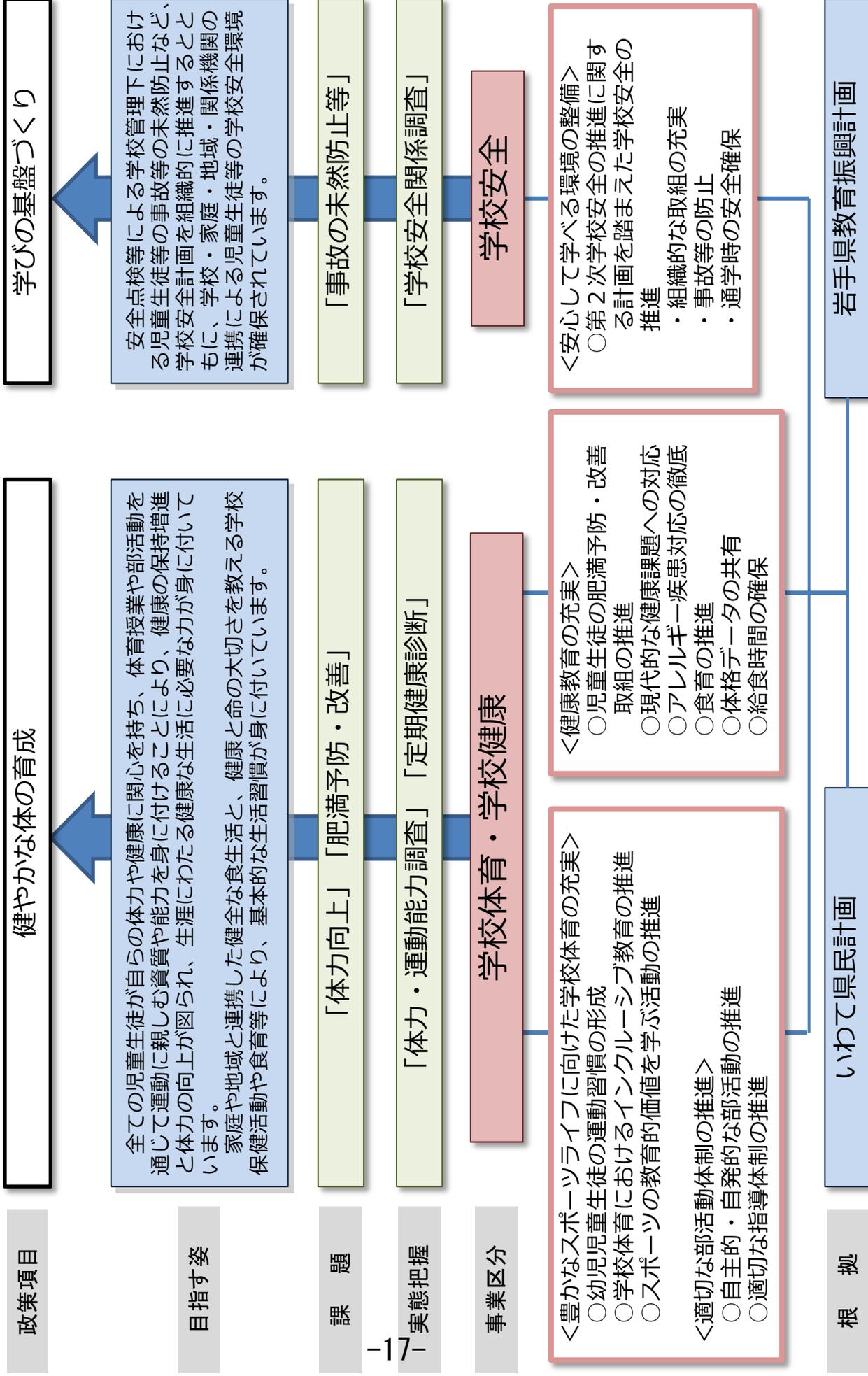
項目	内容
健やかな体の育成	○豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実 ○適切な部活動体制の推進 ○健康教育の充実
学びの基盤づくり	○安心して学べる環境の整備

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
豊かなスポーツライフに向けた学校体育の充実	①希望郷いわて元気・体力アップ 60 運動	・運動習慣の形成に向けた 家庭・地域と連携した環境づくり ・一日に 8000 歩の活動量を目指した「 ステップ 8000! 」の実施	通年	幼稚園 小学校 中学校
	②オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業	・児童生徒が生涯にわたりスポーツに親しむことを目指し、「する・みる・支える・知る」といった 運動・スポーツとの多様な関わり方を学ぶためのオリ・パラ教育の推進	9～3月	推進校 小学校 3校 中学校 7校 義務教育学校 1校 高等学校 2校 特別支援学校 3校
適切な部活動体制の推進	③中学校部活動連絡会等支援事業	・教職員、保護者、外部指導者の 指導方針の共通理解を図るため の「部活動連絡会」開催の周知	5～2月	中学校
	④部活動指導員配置事業	・市町村立中学校等の部活動指導員配置に係る経費を負担するとともに県立学校の部活動指導員に対する研修を実施	通年	市町村 高等学校
健康教育の充実	⑤学校保健総合支援事業	・肥満の予防・改善取組の推進を図るために、 中高生対象の肥満改善指導資料を作成	通年	中学校 高等学校
		・学校保健推進者の資質向上を図ることを目的として、 県学校保健研修会を開催	11月5日	小学校 中学校 高等学校
安心して学べる環境の整備	⑥学校安全担当者研修会	・学校安全の中核となる教職員等の研修の充実を図り、 学校安全に取り組む組織体制の構築 を図るために実施	6月6日	幼稚園 小学校 中学校 高等学校

令和元年度保健体育課関連施策と重点事項

【岩手県教育委員会事務局保健体育課】



令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立生涯学習推進センター

説明者 所長 藤原 安生

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
領域(1) 学習情報提供・ 学習相談	○HP「まなびネットいわて」のコンテンツの更なる充実と最新情報の提供、メルマガ配信数の増加に取り組み、広報紙及び電話対応と併せて、多様な情報提供と相談対応を行う。
領域(2) 調査・研究の推進	○市町村における家庭教育支援に係る実践的事業及び地域づくりにおける学習活動と地域活動の関係性について調査研究等を実施し、「市町村における家庭教育支援のあり方」と「地域づくりにおける社会教育的意義」の提案を行う。
領域(3) 指導者の養成・ 研修の充実	○市町村社会教育・生涯学習関係職員のほか、首長部局に移管した地区センター職員、他部局職員等の資質の向上を図る。 ○希望する市町村や地域団体等の要望を受け、家庭教育に関する課題やニーズに応じた支援及び事業を協働で企画・運営し、担当職員の資質の向上を図る。また、行政と保護者、部局間同士を超えたつながりづくりに努める。 ○地域学校協働活動推進員(コーディネーター)を経験年数ごとに分け、必要とされる知識・技能の習得及びコーディネーターとしての役割を学び、推進員としての資質の向上を図る。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
領域(1) 学習情報 提供・学 習相談	ホームページの管理運用	・HP「まなびネットいわて」による常に新鮮で有益な生涯学習情報の発信 ※R1 目標：年間総アクセス数 72,000 件 (H30 目標：76,043 +4,043)	年間	県民
	相談対応の充実	・子育てに関する電話相談・メール相談、生涯学習・社会教育に関するマナビィコールによる支援		
	情報提供の充実	・いわてマナビィマガジン(月2回程度) ・すこやかメルマガ(月4回) ・生涯学習情報(年4回)		
領域(2) 調査・研 究の推進	調査研究事業	・「市町村における家庭教育支援のあり方に関する実践的研究」(2/2年次) ・「地域づくりにおける社会教育的意義に関する研究」(1/2年次)	研究発表会 R2. 2/6-2/7	生涯学習・社会 教育、地域づく り関係者200人
領域(3) 指導者の 養成・研 修の充実	(1) 人づくり・地域づくり関係職員等研修講座	(1) 社会教育の推進及び人づくり・地域づくりに携わる地区センター・公民館職員(他部局職員も含む)等の資質向上を図る研修会の実施	中部：7/12 県南：10/4 盛岡：8/23	関係職員 ・県民 各30人
	(2) 家庭教育・子育て支援実践セミナー	(2) 希望する市町村や地域団体等の要望を受け、課題やニーズに応じた支援及び事業を協働で実施	第1回：7/31 第2回：8/7 第3回：8/21 第4回：8/28	保護者・行政職員等 各10人
	(3) 地域学校協働活動推進員(コーディネーター)研修会[基礎編]・[応用編]	(3) 学校の地域連携の推進と地域学校協働活動を推進するコーディネーター・推進員等の資質向上に関する研修を実施	基礎編：9/26 応用編：11/15	地域コーディネーター・地域学校協働活動推進員等 各40人

令和元年度の施策に係る説明要旨

公所名 岩手県立図書館

説明者 館長 小田島 正明

1 重点施策について（重点事項や前年度からの改善点等）

項目	主な内容
(1) 図書館機能の充実	(1) 指定管理者との連携協力、来館者・非来館者アンケート等によるニーズの把握、職員の資質向上
(2) 資料の収集・整理・保存・活用	(2) 岩手に関する資料の収集・整理を重点的に実施、講座開催による郷土資料の活用、保存のためのデジタル化、東日本大震災に関する資料の重点的収集
(3) 相談機能の維持充実	(3) 図書館資料を活用したレファレンスサービスの提供、レファレンス事例や郷土資料のデータベースを充実化
(4) 学習機会の提供と読書活動の奨励	(4) 資料を活用した企画展示、推薦図書を紹介、本県独自の読書週間の実施、標語・手づくり絵本の募集
(5) 市町村立図書館等への支援および連携	(5) 協力貸出、共同研究調査、図書館等職員を対象とした各種研修、市町村図書館の新設等に向けた支援
(6) 関係団体との連携	(6) 図書館協会や読書推進運動協議会を通じた連携、他の社会教育施設との連携、アイーナ内施設との連携

2 事業計画について（重点事業2～3）

領域	事業名	実施内容	期日・期間
適切な図書館運営と利用者サービスの向上	図書館資料の収集・活用	1 「望ましい蔵書構成」に沿って収集方針を作成 2 収集方針に基づく図書館資料の収集および活用	通年
	郷土資料・震災資料の網羅的収集・活用	1 古文書等の解説、デジタルアーカイブ化の推進 2 郷土資料講座の開催 3 震災資料の収集、活用	通年
	利用者サービスの向上	レファレンスの充実、企画展等各種催事の開催	通年
県民の読書活動の促進	全県的な読書活動の促進	1 図書館等において読書推進関連イベントの開催 ・こどもの読書週間 4/23～5/12 ・読書週間(全国) 10/27～11/9 ・岩手の読書週間 2/1～2/14 2 読書推進標語・手づくり絵本の募集・表彰 3 「読書をすすめるつどい」(表彰・講演等)の開催	読書週間中 6月～2月 2/1(土)
市町村立図書館等への支援と連携の推進	市町村立図書館等訪問による支援等	1 図書館等訪問による運営状況の把握・助言・支援 2 相互貸借・団体貸出等支援	4月～11月 通年
	市町村立図書館等職員の育成	1 各種研修の実施（県図書館協会と連携して実施） ・新任図書館長等研修会 4/24 ・初任職員研修会 6/6～7 ・中堅職員研修会 7/11～12 ・図書館職員・図書館協議会委員合同研修会 10/25 ・専門研修 9/12ほか2回（調整中） 2 県内図書館等職員への参加による調査研究を実施	4月～10月 4月～12月
	教育事務所等への支援および学習の場の提供等	1 個別相談への対応や職員研修などへの講師派遣 2 インターンシップ、教員10年研修等の受入れ	通年

※ A4判1枚でお願いします。

令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立博物館

説明者 副館長 千田 貴浩

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
(1) 調査研究活動の推進と効果的な資料収集活動	<ul style="list-style-type: none"> ・本県の自然史・文化史の拠点として、調査研究活動について積極的に関係機関と連携し、質的向上を目指す。 ・本県の自然や人間の営みの証拠となる資料の収集活動を効果的に行い、貴重な知的県民財産を次世代へ確実に継承する。
(2) 県民ニーズを踏まえた常設展示や魅力ある展覧会の開催	<ul style="list-style-type: none"> ・調査研究活動の成果や資料収集の状況を発表し、県民の生涯学習等を積極的に支援する。 ・魅力ある展示活動を推進し、多くの来館者の増加に繋げる。
(3) 学校教育と博物館との連携強化など教育普及活動の充実	<ul style="list-style-type: none"> ・各種学校との連携事業の実施により、小中高等学校への学習支援を促進する。 ・県内の全学校に対するイベント情報の提供などによって博物館の利用に繋げ、一層の博学連携の強化に努める。
(4) 文化財の救出及び保存・管理体制の構築	<ul style="list-style-type: none"> ・陸前高田市で被災した博物館資料の復興に向けて、長期的な支援を継続する。

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
展示活動	テーマ展 「古・岩手のクログネ」	発掘成果から見えてきた岩手の古代～中世の鉄生産の技術的変遷と系譜を辿り、沿岸部の鉄生産関連資料を中心に、最新情報を紹介する。	6月8日(土) ～8月18日(日)	県民
	第70回企画展 「よろい・かぶと・かたなの世界」	武家の力を象徴するものとして現代に伝えられる甲冑、刀剣、刀装具などを紹介する。	9月21日(土) ～11月24日(日)	県民
教育普及活動	講演会・講習会・観察会等の開催、学校教育との連携事業	<p>県民の学習意欲の高揚のため各種講演会等を開催するとともに、学習効果が上がるよう学校教育との連携事業を実施する。</p> <p>(1) 文化講演会、地質・自然観察会、県博日曜講座等の実施</p> <p>(2) 教材用資料の貸出、体験教室等の実施</p>	随時	県民
受託事業	科学分析保存処理受託事業	東日本大震災で被災した資料の安定化処理・抜本修復を引き続き実施する。	通年	陸前高田市立博物館
自主事業	第11回博物館まつり	園児・児童を中心として、広く一般の方々に博物館をより身近に感じてもらおう。	10月13日(日)	県民

令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立美術館

説明者 副館長 中野 俊也

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
1 県民の共通財産としての将来への継承	1 県民のニーズに沿った岩手県らしい、高い集客性が見込める企画展等を開催し、多くの県民に国内外の優れた美術作品鑑賞の機会を提供し、県民の文化芸術に対する理解を深める。また、各展覧会に関連付けた講座等を実施し、県民の文化芸術に対する興味・関心を高める。 (1) 企画展及び常設展の観覧者数(58,000人)の達成 (2) 教育普及事業の参加者数(13,500人)の達成 (3) 来館者の総合満足度85%以上の達成
2 調査・研究活動等の推進による本県評価の向上	2 芸術文化振興の拠点的機能を担う施設として、スタッフの人材育成・力量向上を図り、美術品の収集、調査・研究、展示・普及活動等を総合的に推進する。 (1) 美術品の計画的な収集、修復保存 (2) 調査・研究成果等に基づく岩手発の独自企画展開催 (3) 計画的な美術史研究や新規の教育事業開発の推進
3 県民が等しく鑑賞・参加・創造できる環境の整備	3 県民が優れた美術品の鑑賞や制作活動を体験できるよう環境を整備する。 (1) 効果的で訴求力のある広報活動の展開 (2) 県民ニーズに沿った魅力ある自主事業の実施 (3) 収蔵作品データの公開利用の推進

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
展示事業	1 企画展	1 企画展開催 (1) タータン (2) 広重 (3) ホキ美術館展 (4) 紅子と省三展 (5) ジブリの大博覧会 (6) アートフェスタいわて2019	4/13-5/26 6/8-7/15 7/27-9/1 9/14-11/10 11/30-2/16 2/29-3/22	一般
	2 常設展	2 常設展開催	第1～4期	
教育普及活動事業	1 展示関連 2 美術普及 3 教育連携 4 来館者対応	1 ギャラリートーク、関連講座等 2 スタジオプログラム、美術講座等 3 出前授業 4 一般団体、学校団体	通年	一般 *内容により対象限定
自主事業	1 自主事業	1 美術館まつり 2 コンサート	11/3 7回	一般

令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立県南青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
1 主催事業・研修活動の充実	(1) 他施設や他団体との連携による魅力ある事業やプログラムの提供 ・他施設と連携したカヌー体験、トレッキング活動 ・現在あるプログラムを見直すとともに次年度新しい事業として立ち上げられるプログラムの開発 (2) 幅広い年齢層に提供できるプログラムの開発 ・幼児ができる創作活動プログラムの開発 ・家庭教育の充実を図る事業展開の工夫
2 利用の促進	(1) 年度ごとに要覧、所報を作成し利用方法やプログラム例を提示(県南・中部教育事務所管内小学校の全児童に配付) (2) ホームページ、SNSの活用 (3) 学校教育における野外体験活動プログラムの更なる充実 ・災害に対応する力を育むプログラム開発による小中学校の防災教育での利用拡大
3 環境の整備・充実(安全確保)	(1) 常に安全に配慮した施設の整備 ・自主点検では、安全面だけではなく防犯面についても注意しながら実施 ・建物・設備の老朽化に伴う計画的な整備に係る県との協議

2 事業計画について(重点事業2～3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
主催	自然ワンダークラブ	異年齢で構成される集団が、さまざまな活動を体験することにより、自然や岩手の風土についての考えを深め、仲間・自然・岩手を大切にしようとする心を育てる。 <内容> 同じ集団で1泊2日の体験を年4回実施。	①6月1日(土)～2日(日) ②8月24日(土)～25日(日) ③10月5日(土)～6日(日) ④1月11日(土)～12日(日)	小学校4年生～中学生まで 30人
主催	水と緑のフレンドシップ	異年齢で構成される集団の中で野外活動を通して、主体的に活動し、たくましく生きようとする心を育成する。 <内容> ・千貫石森林公園での森林学習 ・八幡平トレッキング ・カヌー体験	7月27日(土)～31日(水)	小学校5年生～中学生まで 30人
主催	かるがも親子体験教室①②③	親子で共同体験や交流活動を行うことにより、相互の理解と関係を深める。また、親同士の交流を通して子育てをする仲間づくりを促進する。 <内容> ①親子 de アウトドアクッキング ②親子 de キャンプ! ③親子 de 創作活動・保護者交流会	①7月6日(土) ②8月10日(土)～11日(日) ③9月7日(土)	小学校1～3年生の子どもを持つ家族 20家族 40人程度

令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立陸中海岸青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項 目	内 容
1 主催事業・活動内容の充実	(1)地域の復興に合わせた海を利用した活動の拡大 ① (H29 年度に営業を再開した町海水浴場を活用海水浴のみ復活した海を利用) ・今年度新たに、中学生以下の親子を対象とした海の事業を実施予定(親子でエンジョイ 1 day 夜釣り) ・いかだ体験や海洋スポーツ体験等、海での日常活動プログラムの試験的な実施 ②地域で生涯学習活動を担う団体等と立ち上げた「生涯学習企画担当者情報交流会」を基盤として、相互協力体制の構築を図るとともに、地元山田町や観光協会との事業連携を推進する。
2 利用の促進	(1)お客様管理によるリピータの確保と保育施設(幼児)の利用拡大、及びボランティアスタッフの拡充 ・事業参加者へのダイレクトメールによる各種事業案内 ・フェイスブックとブログによる広報の継続 ・幼児期運動プログラム「マリン・キッズ」の実施(近隣保育園等への訪問実施) ・ボランティアスタッフの確保と育成(近隣高等学校への事業説明訪問)
3 環境の整備・充実(安全の確保)	(1)施設、設備の点検強化と安全確保並びに計画的な改修等 ・自主点検等のほか体育施設管理士による点検・指導の実施 ・自主点検では、これまでの安全確保の視点に加え防犯視点からの点検も併せて実施 ・建物・設備の老朽化に伴う計画的な整備に係る県との協議 ・所外での活動(沢、山、海など)における十分な安全対策の実施(避難経路の確認や申込時の説明等)

2 事業計画について(重点事業2~3)

領 域	事 業 名	趣 旨・内 容	期日・期間	対象・人数
主 催	海釣り道場	三陸の自然の中で、海釣りの醍醐味を味わい、参加者相互の交流を深める。 船釣り、堤防釣り(初心者)など	5月4日(土) ~5日(日)	小学生~一般 60名程度
主 催	マリンランド陸中自然体験塾① 海の子野外教室	自然体験活動を通して、思いやりの心や自然を大切にすることを育み、参加者相互の交流を図る。 海水浴、いかだ遊び、テント泊、海釣り、沢登りなど	7月30日(火) ~8月1日(木)	小学校 5・6年生 30名程度
自 主	親子でエンジョイ 1 day 夜釣り ※新規事業	中学生までの親子を対象に夜釣りの共同体験活動を通して、親子のふれあいを深める。	11月23日(土)	中学生までの子どもを持つ親子 10家族 40名程度

令和元年度の施策に係る概要

公所名 岩手県立県北青少年の家

説明者 事務局長 高橋 徹

1 重点施策について(重点事項や前年度からの改善点等)

項目	内容
1 主催事業・研修活動の充実	(1) 自然環境や施設の特性を生かした研修内容の充実 (2) 団体等の研修目的や活動計画に対応した活動支援の充実 (3) 時代の要請や地域社会の課題に対応した活動支援と研修内容の開発
2 利用の促進	(1) 青少年の生きる力を育む自然体験活動の充実 (2) 広報活動の強化 ・日常的な利用促進活動(例:利用団体に次回の利用案内を行う) ・各種団体の会議や小中学校等への訪問活動及びチラシ配布 ・地元FMラジオ番組への生出演や地元ケーブルテレビでの放送
3 環境の整備・充実(安全の確保)	(1) 定期点検と日常点検(日に2度の巡回、警備員の巡回)により、施設補修・修繕等の迅速な実施 (2) 活動中やスケートリンク等での事故発生時の対応として、マニュアルにより適切に対応できるよう全職員の救急法を習得 (3) 環境や安全に関する注意場所・事項等の情報を適宜掲示することにより「見える化」を図り、職員の説明に加えて利用者自身が常に確認できる環境を整備

2 事業計画について(重点事業2~3)

領域	事業名	趣旨・内容	期日・期間	対象・人数
主催	ジュニア フォレスターズ 大作戦	森林に関する学習や体験活動等を季節ごとに行うことにより、自然を大切にする心を育み、環境保全の実践意欲を育てる。 【3回シリーズのキャンプ】	①6月1日(土) ~2日(日) ②9月7日(土) ~8日(日) ③1月25日(土) ~26日(日)	小学校 4~6年生 30人程度 【年間登録制】
主催	親子で アウトドア チャレンジ	宿泊を伴う野外活動を通して、家族のふれあい、参加者相互の親睦を深めるとともに、野外活動に親しむきっかけとする。	6月15日(土) ~16日(日)	小学生と その家族 40人程度
自主	ステラパル 冬まつり	施設を一般開放し、日頃の利用に感謝するとともに、冬季の遊びや活動を体験する場を提供する。	2月16日(日)	子どもから 大人まで 定員なし

今後求められる施策の方向性について

◆ 協議テーマ

次代の岩手を創造する人づくり・地域づくりの推進

現在の施策に加え、ある程度先を見通した施策の展開が必要であることから、震災からの復興が十分に進むと想定される約10年後（次の世代になる頃）を想定していく。

今後、予測できないような社会変動も想定されるため、既存のしくみにとらわれすぎずに、現在ないものを積極的に生み出していくような観点も含めて考えていく。

生涯学習・社会教育の基本となる「人づくり」「地域づくり」の視点を意識していく。

※幼児～高齢者まで全ての世代を対象にした、生涯学習・社会教育の「学び・交流」による人材育成（自己成長）を想定するとともに、活動範囲別に、一般の人材、地域のリーダー・コーディネーター的な人材、県内の広域のリーダー・コーディネーター的な人材、岩手から全国に発信したり全国から岩手を応援してくれたりする人材（岩手県出身者、岩手県居住経験者等）などを想定していく。

※「地域づくり」とは、「人づくり」が進み、地域の人々が生き生きとして活動することにより、地域が全体として活性化している状況を想定する。

【サブテーマ】

～社会の変動に対応し、岩手らしさを生かした

生涯学習・社会教育施策の方向性について～

少子高齢化社会、情報化社会、人工知能（AI）の普及による職業の変化、働き方改革の推進、文部科学省の総合教育政策局設置などにみられる分野にとらわれない総合的な教育政策の展開、新学習指導要領「社会に開かれた教育課程」の推進、コミュニティ・スクールの義務化など近年の社会や教育の情勢・課題に柔軟に対応した施策の展開を行っていく。

「いわて県民計画 2019～2028」及び「岩手県教育振興計画」を踏まえ、岩手の強み・弱みを確認したうえで、既存の仕組み・環境・人材等の強みを生かし、必要に応じて弱みの克服に取り組む施策を展開する。

◆ 今後のスケジュール（案）

時期	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
内容	【7/18 第1回会議】					【1/28 第2回会議】			
	テーマに基づき、「県として取り組む具体的な方策」について委員から意見を集約		会議にて集約した意見と随時の情報提供等による意見照会を通じ、 （仮称）「協議の報告」素案作成			素案に対する各委員からの意見集約	素案についての最終検討	素案修正と委員への最終確認	（仮称）「協議の報告」の県HP掲載

◆平成 30 年度第 2 回会議におけるキー・センテンス

※ 協議テーマに関連した意見をピックアップ

- ・ 学びと活動の**循環** ・ **持続可能な**地域づくり ・ 大人の**やりがい**
- ・ 岩手が抱える課題を**みんなで知恵を出して学び合う**
- ・ 学校と地域コミュニティの**目標の共有** ・ 学校と地域がお互いに**win・winの関係**に
- ・ 地域の方をもっと**授業の中で活用** ・ 学校を地域の方々の**学び直しの場**に
- ・ 地域の活性化を進めるうえでは**インクルーシブ教育の推進**が必要
- ・ きちんとした**ルールづくり** ・ 発想の**柔軟性**
- ・ 核となる**地域コーディネーター** ・ **新しいしくみ**

参考) 平成 30 年度第 2 回会議における各委員の御意見から

- ・ 各々の地域での**地域らしい実践の積み重ね**が「岩手らしさ」をつくりあげる。
- ・ 一つ一つの地域をどうつくっていくか、**維持していくためには**どうしていくかが大事。
- ・ いかに地域の様々な活動を行っている**人々を結び付けるか**が重要。
- ・ **様々な地域の方とつながり**ができることは、コーディネーターをしていく中での良さである。
- ・ ふるさと科は**地域のことは地域の人でなければ十分に教えられない**という視点に立っているもの。
- ・ 学校の先生ふるさと科の授業を行うにあたって**地域を頼らざるを得ない状況**を作った。
- ・ どのように**町の社会教育主事を育成して、首長部局と連携して、地域とうまくやっていく**か。
- ・ 子供たちのためばかりに学校があるのではなく、**地域のためにも学校があるというような感覚**を少しでも持てる雰囲気位置づけられれば。
- ・ 地域の活性化につなげるためには、**学校を含めて地域全体で地域づくりに関わる**ことが必要。
- ・ **各学校の取り組みを市全体に広報で紹介して全市民に問題意識**を持ってもらうことが大切。
- ・ **地域全体で子供を見守っていくという姿勢**を、広報活動によりつくっている。
- ・ 学校で**それぞれの地域で行われていた活動すべてを取り入れることは難しい**。
- ・ **持続可能な地域づくり**の観点を入れていかないと、今後は特に子供が大変になる。
- ・ 大槌町のように**地域の方をもっと授業の中で活用**していくことで、持続可能な取り組みになるのではないか。
- ・ 昔ながらの学校のイメージを持つ教員の中には、**授業に地域の方が入ってくることに少し抵抗がある場合もあり、進め方には気配りも**必要。

- ・学校において地域の方々に子供の教育活動を支えてもらい、**学校が地域の方々の学び直しの場**にもあるためには、**学校とコミュニティの目標の共有**が大切。
- ・それぞれの**地域の特徴に合わせて進めていく**ことや**先生方の負担が減るような新しい活動**であってほしいし、そのような取り組みでなければ意味がない。
- ・**先生方から地域にやってほしいことを提案**することで地域は動きやすくなる。
- ・**地域と学校双方にメリット**があること、**きちんとしたルールづくり**も大事。
- ・**先生方がもっと余裕を持って活動**してほしい。
- ・なぜ、わざわざ**新しいしくみ**にするのかという疑問。
- ・**地域の格差や市町村の温度差**が出てくると思われるので、調節が必要である
- ・**地域の活性化を進めるうえではインクルーシブ教育の推進が必要。**
- ・特別支援教育は社会教育と区別して進めるのではなく、**社会教育を通じて、地域における障害がある児童生徒の理解**を進める必要がある。
- ・**これからの社会教育においては、特別支援教育に係る指導支援できるような内容**を十分に盛り込んで推進してほしい。
- ・あまり堅苦しく考えずに、**発想の柔軟性**が必要。
- ・地域と学校の連携による活動を進める際も、**柔軟な発想を持った核となる地域コーディネーター**ができれば複数配置されることが望まれる。
- ・**「持続可能」ということは、基本的に大事**なこと。
- ・行政として又は活動者としてなど**立場の違いによって目標のとらえ方は違う。**
- ・「コミュニティ・スクール」への移行を進めていく中においても、**目標の作り方の支援、教えてくれる人**がいれば、それほど無理なく、**各地域の人達がこれまでの実績を生かす形で、安心して活動**ができていくのではないかと。
- ・**学びと活動の循環**というテーマに対しては、学びの場の創出と言う点では、**大人のやりがい**にもつながっているのでは、見守りや、子供たちの安全確保などの取組を継続していくことは大賛成。
- ・社会や学校のニーズも年々変化していく中で、**学校と地域がお互いにwin・winの関係**を築くことの難しさ。
- ・**岩手が抱える課題をみんなで知恵を出して学び合うようなコミュニティ・スクールの発想**が大切。
- ・**持続可能**で、**無理のない形**で、**柔軟性**のある、**学校と地域がお互いにwin・win**になるようなCSを目指してほしい。
- ・コミュニティ・スクールを進めていくためには、**地域コーディネーターの配置**は必置。

情報提供 1

いわて県民計画2019～2028 より

I 健康・余暇

5 生涯を通じて学び続けられる場をつくります

(基本方向)

生涯を通じて楽しく学ぶことができ、一人ひとりの学びを地域コミュニティの再生・維持・向上や地域の課題解決に役立てていくため、情報通信技術（ICT）を活用した学習情報の提供等や、「地域学校協働活動¹」への参加の促進などにより、多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくりを推進します。

また、県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、自然、文化、歴史など、有形・無形のあらゆる資源を学びの対象や場とすることにより、岩手ならではの学びの提供に取り組みます。

さらに、誰もが学びたい時に学べる環境を整備するため、指導者の研修会等により、社会教育の中核を担う人材を育成するとともに、多様な学びのニーズに応じた社会教育施設の充実を図ります。

現状と課題

- ・健康志向の高まりや医療体制の充実等により、人生100年時代を迎える中、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたって学習を継続し、その成果を社会に役立てることができる環境づくりが必要です。
- ・社会教育施設の利用や、市町村等が主催する各種講座等への参加などを通じ、多くの県民が生涯学習に積極的に取り組んでおり、こうした多様な活動を更に広げていくことが必要です。
- ・県民が学びたい時に学べる環境を提供していくためには、中核的な人材育成に加え、博物館や青少年の家などの社会教育施設のハード面、ソフト面を充実させていくことが必要です。

県が取り組む具体的な推進方策（工程表）**① 多様な学習機会の充実**

- ・生涯を通じて楽しく学ぶ基盤づくりのため、読書ボランティアと連携した読み聞かせなど、幼少年期の読書活動を推進します。
- ・「いつでも・どこでも・だれでも」生涯を通じて学び続けられる環境づくりのため、市町村と連携を図りながら、県立生涯学習推進センター等による、情報通信技術（ICT）を活用した学びの機会や活躍の場等に関する情報の集積・提供など、学習情報提供の仕組みを一層充実させます。

¹ 地域学校協働活動：登下校指導、校庭整備、各教科の学習支援、地域の資源回収、地域伝統行事への参加等、地域と学校が相互にパートナーとして連携・協働して行う様々な活動。教育振興運動の内容もこれに当たり、地域の高齢者、成人、学生、保護者、PTA、NPO、民間企業、団体・機関等の幅広い地域住民等の参画を得て、「学校を核とした地域づくり」と「地域とともにある学校づくり」を目指すもの。

- ・ 障がい者の生涯を通じた学習活動や、特別な事情により就学困難な生徒等の学習機会の充実を図るため、個別の学習ニーズに応じた学習相談や情報提供を行います。
- ・ 県民の主体的な学びを支援するため、図書館において資料・情報の収集・活用の促進を図り、利用者の学習活動を支えるレファレンス業務²を充実します。

② 岩手ならではの学習機会の提供

県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、社会教育施設等において豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした公開講座を開催するなど、岩手ならではの学習機会の提供に取り組みます。

③ 学びと活動の循環による地域の活性化

- ・ 県民一人ひとりが生涯学習で学んだ成果を地域課題の解決等に役立てるなど、学びと活動の循環を促すため、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を推進するフォーラムの開催など、学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクール³や教育振興運動⁴の中核とした「地域学校協働活動」への参加促進に取り組みます。
- ・ 地域の活性化に向けた仕組みづくりを進めるため、PTAをはじめとする各種社会教育関係団体の活動の支援を行うとともに、団体相互の連携・協力に向けた交流の機会を提供します。
- ・ 地域づくり人材の育成のため、県立生涯学習推進センターを活用し、教育分野の枠を越えた地域づくりに関する研修・交流の場を提供します。

④ 社会教育の中核を担う人材の育成

県民の生涯を通じた学習活動を支援するため、公民館の社会教育指導員や地域学校協働活動推進員などの指導者研修会を開催するとともに、研修会での交流などを通じた指導者相互のネットワーク化を図り、社会教育の中核を担う人材を育成します。

⑤ 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実

- ・ 県民一人ひとりが学びたい時に学べる環境を提供するため、博物館等の県立社会教育施設のハード面、ソフト面の充実を計画的に進め、様々な世代や多様な興味関心など、幅広い学びのニーズに応じた学習機会を提供する拠点づくりを進めます。
- ・ 市町村が設置する公民館等の学びの拠点の発展のため、ニーズに応じた事業支援や優れた活動の周知・交流を積極的に進めます。

² レファレンス業務：情報を求めている方に、調べている事柄の事実関係が分かる資料の提示や、文献探しのサポートを行う業務。

³ コミュニティ・スクール：学校運営協議会を設置する学校のことで、学校と保護者や地域の人々がともに知恵を出し合い、学校運営に意を反映させることにより、連携・協働しながら子供たちの豊かな成長を支える仕組み。

⁴ 教育振興運動：岩手県において昭和40年（1965年）から始まり、全ての市町村に推進組織が置かれ、学校区や公民館区などの実践区において、子ども、家庭、学校、地域、行政の5者が一体となり、地域の教育課題を解決するために自主的に行われている実践活動の総称。

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）																																																		
	～2018	2019	2020	2021	2022																																														
① 多様な学習機会の充実 目標 ・生涯学習の推進を支える指導者・ボランティアの人材登録者数（人） <table border="1"> <tr><td>現状値</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td></tr> <tr><td>792</td><td>835</td><td>860</td><td>885</td><td>910</td></tr> </table> 現状値は2017年の値 ・生涯学習情報提供システム（ホームページ）利用件数（件） <table border="1"> <tr><td>現状値</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td></tr> <tr><td>63,542</td><td>72,000</td><td>79,000</td><td>86,000</td><td>93,000</td></tr> </table> 現状値は2017年の値 ・「読書がとても楽しい」と感じる児童生徒の割合（％） <table border="1"> <tr><td>現状値</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td></tr> <tr><td>小45</td><td>46</td><td>47</td><td>48</td><td>50</td></tr> <tr><td>中42</td><td>44</td><td>46</td><td>48</td><td>51</td></tr> <tr><td>高38</td><td>41</td><td>44</td><td>48</td><td>52</td></tr> </table> 現状値は2018年の値 ・放課後子供教室において指導者を配置して「体験活動」を実施している教室の割合（％）【再掲】 <table border="1"> <tr><td>現状値</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td></tr> <tr><td>13.0</td><td>40.0</td><td>60.0</td><td>80.0</td><td>100</td></tr> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	792	835	860	885	910	現状値	2019	2020	2021	2022	63,542	72,000	79,000	86,000	93,000	現状値	2019	2020	2021	2022	小45	46	47	48	50	中42	44	46	48	51	高38	41	44	48	52	現状値	2019	2020	2021	2022	13.0	40.0	60.0	80.0	100	
現状値	2019	2020	2021	2022																																															
792	835	860	885	910																																															
現状値	2019	2020	2021	2022																																															
63,542	72,000	79,000	86,000	93,000																																															
現状値	2019	2020	2021	2022																																															
小45	46	47	48	50																																															
中42	44	46	48	51																																															
高38	41	44	48	52																																															
現状値	2019	2020	2021	2022																																															
13.0	40.0	60.0	80.0	100																																															
② 岩手ならではの学習機会の提供 目標 ・県立社会教育施設で「岩手」をテーマとした講座の受講者数（人） <table border="1"> <tr><td>現状値</td><td>2019</td><td>2020</td><td>2021</td><td>2022</td></tr> <tr><td>850</td><td>950</td><td>1,050</td><td>1,150</td><td>1,250</td></tr> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	850	950	1,050	1,150	1,250																																									
現状値	2019	2020	2021	2022																																															
850	950	1,050	1,150	1,250																																															

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）														
	～2018	2019	2020	2021	2022										
③ 学びと活動の循環による地域の活性化 目標 ・生涯学習の推進を支える指導者・ボランティアの人材登録者数（人）【再掲】															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>792</td> <td>835</td> <td>860</td> <td>885</td> <td>910</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年の値						現状値	2019	2020	2021	2022	792	835	860	885	910
現状値						2019	2020	2021	2022						
792						835	860	885	910						
・教育振興運動として計画的に取り組まれている地域活動件数（件）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4,224</td> <td>4,454</td> <td>4,684</td> <td>4,914</td> <td>5,144</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2018年の値						現状値	2019	2020	2021	2022	4,224	4,454	4,684	4,914	5,144
現状値						2019	2020	2021	2022						
4,224						4,454	4,684	4,914	5,144						
④ 社会教育の中核を担う人材の育成 目標 ・社会教育指導員・地域づくり関係者の資質向上を図る研修会の受講者数（人）															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>現状値</th> <th>2019</th> <th>2020</th> <th>2021</th> <th>2022</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>79</td> <td>93</td> <td>103</td> <td>113</td> <td>123</td> </tr> </tbody> </table> 現状値は2017年の値						現状値	2019	2020	2021	2022	79	93	103	113	123
現状値	2019	2020	2021	2022											
79	93	103	113	123											
・生涯学習・社会教育関係者及び地域づくり関係者の研修受講促進															
・市町村の生涯学習・社会教育事業の推進支援と課題解決支援															

県が取り組む具体的な推進方策	工程表（４年間を中心とした取組）																								
	～2018	2019	2020	2021	2022																				
⑤ 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実 目標 ・ 県立博物館・県立美術館の企画展における観覧者の満足度の割合（％） <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>91</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>91</td> <td>91</td> </tr> </table> 現状値は2017年の値 ・ 県立青少年の家における利用者の満足度の割合（％） <table border="1"> <tr> <td>現状値</td> <td>2019</td> <td>2020</td> <td>2021</td> <td>2022</td> </tr> <tr> <td>97</td> <td>97</td> <td>97</td> <td>97</td> <td>97</td> </tr> </table> 現状値は2017年の値	現状値	2019	2020	2021	2022	91	91	91	91	91	現状値	2019	2020	2021	2022	97	97	97	97	97	県立博物館及び県立美術館における多様なニーズに応じる企画展の開催				
	現状値	2019	2020	2021	2022																				
	91	91	91	91	91																				
	現状値	2019	2020	2021	2022																				
	97	97	97	97	97																				
	県立青少年の家における多様なニーズに応じる体験プログラムの実施																								
県立野外活動センターの用地取得、造成・グラウンド等工事、建築工事				開所準備	開所（供用開始）																				
市町村が設置する公民館等の支援																									
社会教育施設等の職員研修の充実																									

県以外の主体に期待される行動

- （家庭）
 - ・ ボランティア活動等の地域活動や学校を支援する活動への参加
 - ・ 地域学校協働活動への参画・協働
- （地域）
 - ・ ボランティア活動や地域行事をはじめとする地域活動への積極的参加
 - ・ コミュニティ・スクールへの参画・協働
 - ・ 教育振興運動の運営
- （企業、NPO、各種団体等）
 - ・ 関係団体による障がい者の生涯を通じた学習活動の支援
 - ・ ボランティア活動をはじめとする地域活動への参画促進
 - ・ 地域学校協働活動への参画
 - ・ 地域団体相互の連携・協力による活動の活性化
- （社会教育施設等）
 - ・ 情報通信技術（ICT）等を活用した多様な生涯学習情報の提供
 - ・ 図書館のレファレンス業務の充実
 - ・ 岩手ならではの自然、文化、歴史等をテーマとした公開講座の開催
 - ・ 幅広いニーズや地域課題を踏まえた多様な学習機会の充実
- （学校）
 - ・ コミュニティ・スクールの運営
 - ・ 教育振興運動への参画・協働
- （市町村・市町村教育委員会）
 - ・ 情報通信技術（ICT）等を活用した多様な生涯学習情報の提供
 - ・ 多様な学習に関する相談体制の充実
 - ・ 幅広いニーズや地域課題を踏まえた多様な学習機会の充実
 - ・ 障がい者の生涯を通じた学習活動の推進
 - ・ 地域学校協働活動の指導・支援
 - ・ 社会教育の中核を担う人材を育成するための研修の充実

情報提供 2

岩手県教育振興計画 より

11 生涯にわたり学び続ける環境づくり

(1) 現状と課題

- 1 健康志向の高まりや医療体制の充実等により、人生 100 年時代を迎える中、「いつでも・どこでも・だれでも」生涯にわたって学習を継続できる環境づくりが必要です。
- 2 社会教育施設等の利用や、市町村等が主催する各種講座等への参加などを通じ、多くの県民が生涯学習に積極的に取り組んでおり、こうした多様な活動を更に広げていく必要があります。
- 3 平成 29 年度（2017 年度）子どもの読書状況調査結果では、岩手県の児童生徒の読書率が全国と比較して高い傾向{1 か月の読書冊数：小学校 5 年生 16.4 冊（全国 11.1 冊）}にあることをはじめ、県民の読書習慣が充実しつつあることから、更に児童生徒や幅広い世代が読書の楽しさを実感し、生涯にわたって読書に親しみ、読書を楽しむ習慣を形成する必要があります。
- 4 県民が学びたい時に学べる環境を提供していくためには、中核的な人材育成に加え、博物館や青少年の家などの社会教育施設等のハード面、ソフト面を充実させていく必要があります。

(2) 目指す姿

- 1 人生 100 年時代を迎える中で、県民一人ひとりが生涯を通じて学びたいことや学ぶ必要があることを自分に適した手段や方法で楽しく学び、その成果を生きがいにつなげるとともに、地域社会との関わりを持ちながら生活しています。
- 2 地域の課題解決に向けた社会教育の場を拡充し、学校・家庭・地域が連携した地域づくりが進むことにより、地域コミュニティの再生・維持・向上が図られています。
- 3 社会教育施設等のほか、自然、文化、歴史など、有形・無形のあらゆる資源を学びの対象や場としながら、県民一人ひとりが、郷土に対する誇りや愛着を持って生活しています。
- 4 社会教育施設等が充実され、文化芸術・スポーツ活動も含めた幅広い学びのニーズに応じて活用されています。

【参考】関連する「いわて県民計画（2019～2028）」における主な指標

目標項目（指標）	現状値 2017	目標値				
		2019	2020	2021	2022	（参考値） 2023
① 生涯学習に取り組んでいる人の割合	40.2%	41.2%	42.2%	43.2%	44.2%	45.2%
② 生涯学習情報提供システム（ホームページ）利用件数	63,542 件	72,000 件	79,000 件	86,000 件	93,000 件	100,000 件
③ 社会教育指導員・地域づくり関係者の資質向上を図る研修会の受講者数	79 人	93 人	103 人	113 人	123 人	133 人
④ 県立博物館・県立美術館の企画展における観覧者の満足度の割合	91%	91%	91%	91%	91%	91%

(3) 目指す姿を実現するための取組の方向性

1 多様な学習機会の充実

- ・ 生涯を通じて楽しく学ぶ基盤づくりのため、読書ボランティアと連携した読み聞かせなど、幼少年期の読書活動を推進します。
- ・ 「いつでも・どこでも・だれでも」生涯を通じて学び続けられる環境づくりのため、市町村と連携を図りながら、県立生涯学習推進センター等による、ICTを活用した学びの機会や活躍の場等に関する情報の集積・提供など、学習情報提供の仕組みを一層充実させます。
- ・ 障がい者の生涯を通じた学習活動や、特別な事情により就学困難な生徒等の学習機会の充実を図るため、学習ニーズに個別に応じた学習相談や情報提供を行います。
- ・ 県民の主体的な学びを支援するため、図書館において資料・情報の収集・活用の促進を図り、利用者の学習活動を援助するレファレンス業務を充実します。

2 岩手ならではの学習機会の提供

- ・ 県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、社会教育施設等において豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした公開講座を開催するなど、岩手ならではの学習機会の提供に取り組みます。

3 学びと活動の循環による地域の活性化

- ・ 県民一人ひとりが生涯学習で学んだ成果を地域課題の解決等に役立てるなど、学びと活動の循環を促すため、「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を推進するフォーラムの開催等を通して、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度を設置している学校）への理解や教育振興運動などの地域学校協働活動への参加促進に取り組みます。
- ・ 地域の活性化に向けた仕組みづくりを進めるため、PTAをはじめとする各種社会教育関係団体の活動の支援を行うとともに、団体相互の連携・協力に向けた交流の機会を提供します。
- ・ 県立生涯学習推進センターを活用した地域づくり人材の育成のため、教育分野の枠を超えた地域づくりに関する研修・交流の場を提供します。

4 社会教育の中核を担う人材の育成

- ・ 県民の生涯を通じた学習活動を支援するため、公民館の社会教育指導員や地域学校協働活動推進員などの指導者研修会を開催するとともに、研修会での交流などを通じた指導者相互のネットワーク化を図り、社会教育の中核を担う人材を育成します。

5 多様な学びのニーズに応じた拠点の充実

- ・ 県民一人ひとりが学びたい時に学べる環境を提供するため、博物館等の県立社会教育施設のハード面、ソフト面の充実を計画的に進め、様々な世代の多様な興味関心など、文化芸術・スポーツ活動も含めた幅広い学びのニーズに応じた学習機会を提供する拠点づくりを進めます。
- ・ 市町村が設置する公民館等の学びの拠点の発展のため、ニーズに応じた事業支援や優れた活動の周知・交流を積極的に進めます。

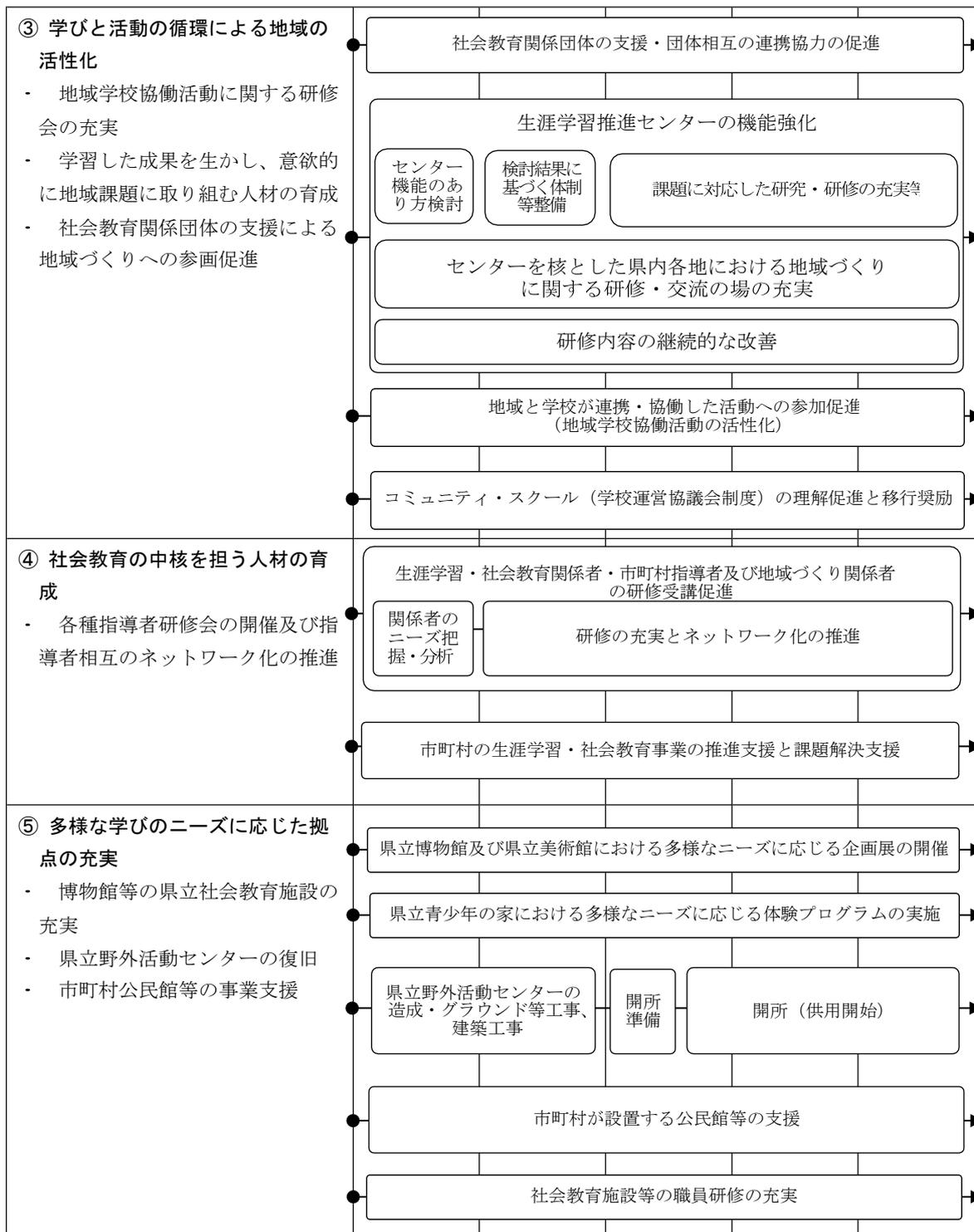
(4) 取組にあたっての役割分担

- 1 市町村やNPO・各種団体、企業等は、住民のニーズや地域課題を踏まえた学習機会の提供に努めるとともに、ボランティア活動や地域活動への参画を促すなど、学びと活動が循環する機会づくりに取り組みます。
- 2 県と県教育委員会は、市町村等との連携、協力を図りながら、市町村や各種団体等が提供する学習機会をはじめとする関連情報の集約や提供、ニーズに応じた指導者養成及び研究成果の普及に取り組み、多様な学習を支援する環境づくりを進めます。
- 3 県教育委員会は、地域における家庭教育や社会教育の充実を図るため、教育振興運動を基盤としながら、地域学校協働活動の活性化を推進するなど、その体制の整備を進めます。

また、市町村や関係団体との連携を深めながら、県立社会教育施設の充実に取り組むとともに、社会教育関係団体の支援・育成や団体相互の連携協力を促進します。

(5) 具体的な推進方策

具体的な推進方策	5年間の取組（工程表）				
	2019	2020	2021	2022	2023
① 多様な学習機会の充実 ・ 生涯学習情報提供システムのリニューアル ・ 市町村や各種団体等が提供する学習機会をはじめとする関連情報の集約及び提供 ・ ニーズに応じた指導者養成及び研究成果の普及	県内各地での指導者・ボランティア研修会の開催				
	県内市町村と連携した生涯学習情報提供システムの内容充実 多様なニーズに対応した提供コンテンツの充実				
	提供システム（ホームページ）のリニューアル		ニーズに応じた研修の充実		
	障がい者の生涯学習活動支援に対するニーズの把握				
	第4次いわて子ども読書プランの周知・啓発及びそれに基づく読書活動の環境充実				
第5次いわて子ども読書プランの策定に向けた実態把握					
② 岩手ならではの学習機会の提供 ・ 豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした社会教育施設等での公開講座の開催	県内市町村と連携した生涯学習情報提供システムの内容充実 多様なニーズに対応した提供コンテンツの充実				
	提供システム（ホームページ）のリニューアル				
	岩手の自然・文化・歴史等の資源に関する情報収				
社会教育施設等における公開講座の開催 講座の体系化					



◆グループ協議について**1 目的**

新たに策定された、「いわて県民計画 2019～2028」「岩手県教育振興計画」に基づき、協議テーマ「時代の岩手を創造する人づくり・地域づくりの推進～社会の変動に対応し、岩手らしさを生かした生涯学習・社会教育施策の方向性について」の県としての具体的な取組について意見交換を行う。

2 グループ協議の流れ（全 50 分）

<各グループの進行・記録： 生涯学習文化財課 社会教育主事・指導主事>

(1) 協議の前提となる事項の説明・確認（5分）

- ・ 事務局より協議の柱についての説明を行います。

(2) グループ協議（40分）

- ・ いわて県民計画 2019～2028 で示されている基本方向に基づく県としての取組について、さらに具体的な取組とするための御意見をいただきます。

協議の柱①「岩手ならではの学びの提供」

協議の柱②「社会教育の中核を担う人材の育成」及び「多様な学びのニーズに応じた社会教育施設の充実」

協議の柱③「多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくり」

(3) 協議内容の共有（5分）

- ・ 各グループの記録係（社会教育主事・指導主事）が、協議の要点について発表し、協議内容を情報共有します。

◆協議の柱に関する計画中的施策について

5 生涯を通じて学び続けられる場を作ります

(基本方向)

生涯を通じて楽しく学ぶことができ、一人ひとりの学びを地域コミュニティの再生・維持・向上や地域の課題解決に役立てていくため、情報通信技術（ICT）を活用した学習情報の提供等や、「地域学校協働活動」への参加の促進などにより、**多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくり**を推進します。

また、県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するため、自然、文化、歴史など、有形・無形のあらゆる資源を学びの対象や場とすることにより、**岩手ならではの学びの提供**に取り組みます。

さらに、誰もが学びたい時に学べる環境を整備するため、指導者の研修会等により、**社会教育の中核を担う人材を育成するとともに、多様な学びのニーズに応じた社会教育施設の充実**を図ります。

○協議の柱にかかる県が取り組む具体的な推進方策

協議の柱①「岩手ならではの学びの提供」

【県が取り組む具体的な推進方策】

- ・ 県民一人ひとりの郷土に対する誇りや愛着を醸成するための、社会教育施設等における豊かな自然、文化、歴史等の資源をテーマとした公開講座の開催

協議の柱②「社会教育の中核を担う人材の育成」及び「多様な学びのニーズに応じた社会教育施設の充実」

【県が取り組む具体的な推進方策】

- ・ 公民館の社会教育指導員や地域学校協働活動推進員などの指導者研修会の開催
- ・ 研修会での交流などを通じた指導者相互のネットワーク化
- ・ 博物館等の県立社会教育施設の計画的なハード面、ソフト面の充実をもとにした、幅広い学びのニーズに応じた学習機会を提供する拠点づくりの推進
- ・ 市町村が設置する公民館等の学びの拠点の発展のための、ニーズに応じた事業支援や優れた活動の周知・交流の推進

協議の柱③「多様な学習機会の充実を図り、学びの成果を地域の活性化につなげる仕組みづくり」

【県が取り組む具体的な推進方策】

- ・ 生涯を通じて楽しく学ぶ基盤づくりのための、読書ボランティアと連携した読み聞かせなどの幼少年期の読書活動の推進
- ・ 市町村と連携した県立生涯学習推進センター等による、情報通信技術（ICT）を活用した学びの機会や活躍の場等に関する情報の集積・提供などの学習情報提供の仕組みの充実
- ・ 障がい者の生涯を通じた学習活動や、特別な事情により就学困難な生徒等の学習機会の充実のための個別の学習ニーズに応じた学習相談や情報提供
- ・ 県民の主体的な学びの支援のための、図書館における資料・情報の収集・活用の促進や利用者の学習活動を支えるレファレンス業務の充実
- ・ 「地域とともにある学校づくり」や「学校を核とした地域づくり」を推進するフォーラムの開催を通じた学校運営協議会制度を導入したコミュニティ・スクールや教育振興運動を中核とした「地域学校協働活動」への参加促進
- ・ 地域の活性化に向けた仕組みづくりを進めるためのPTAをはじめとする各種社会教育関係団体の活動の支援及び団体相互の連携・協力に向けた交流の機会の提供
- ・ 地域づくり人材の育成のための県立生涯学習推進センターの活用による教育分野の枠を越えた地域づくりに関する研修・交流の場の提供